

栃木県立美術館[年報]

令和5年度 ————— 2023年度

No.51

目 次

美術館概要		3
企画展		
(1) 川島理一郎展—描くことは即ち見ること		5
(2) 富井大裕展 今日の彫刻		10
(3) 栃木県誕生150年記念 下野新聞創刊145周年記念 文晁と北斎—このふたり、ただものにあらず		14
(4) 春陽会誕生100年 それぞれの闘い 岸田劉生、中川一政から岡鹿之助へ		20
常設展示		
(1) コレクション展Ⅰ 田崎草雲・小室翠雲 —関東南画の源流		27
(2) コレクション展Ⅱ 美術館に行ってみよう！		32
(3) コレクション展Ⅲ 木版画の表現		37
(4) コレクション展Ⅳ かたちのチカラ		41
アートリンクとちぎ2023(館外展)		46
諸 表		
1. 展覧会事業		52
2. 普及教育事業		54
3. その他の事業		56
4. 所蔵作品集計表		57
5. 美術館利用者数表		58
新収蔵美術資料		59
美術資料貸出状況		63
学芸員研究業績等		65
名 簿		67

■ 概 要

沿 革

昭和43年－1968

- 12月 — 第121回栃木県議会定例会において美術館建設について要望あり。

昭和44年－1969

- 3月 — 美術館建設について基本構想樹立。基本構想に基づき、建設準備調査に入る。
- 7月 — 栃木県立美術館建設委員会を結成、調査を開始、宇都宮市桜4丁目に敷地決定

- 9月 — 設計者を川崎清氏に決定

昭和45年－1970

- 3月 — 全国主要美術館実態調査
- 6月 — 設計構想

昭和46年－1971

- 2月 — 清水建設と工事請負契約
- 5月 — 建設委員会を発展的に解散し美術館運営準備委員会を結成
- 7月 — 起工式
開館記念展事業の決定
- 8月 — 本体基礎工事着手

昭和47年－1972

- 5月 — 文部省において社会教育施設補助金として3,000万円を交付決定
- 11月2日 — 竣工式・開館式および開館記念特別企画「栃木県の美術」展特別観覧

- 11月3日 — 一般公開

昭和56年－1981

- 10月24日 — 常設展示館開館

昭和57年－1982

- 3月26日 — 収蔵庫増築完了

平成4年－1992

- 11月1日 — 開館20周年記念「太陽と風と雨」展開催

平成7年－1995

- 11月6日 — 改修工事のため休館
～平成8(1996)年10月11日まで

平成9年－1997

- 4月 — 「バーナード・リーチ展」をはじめ当年度の企画展を、開館25周年記念展として開催

平成10年－1998

- 4月 — 知事部局(生活環境部文化振興課)と教育委員会事務局(生涯学習課)の共同管理となる。

平成19年－2007

- 3月14日 — 耐震改修工事のため休館
～平成20(2008)年3月31日まで

平成29年－2017

- 1月 — エレベーター改修工事のため休館

令和4年－2022

- 4月 — 開館50周年記念「題名のない展覧会～栃木県立美術館50年のキセキ」、「印象派との出会いーフランス絵画の100年 ひろしま美術館コレクション」展を開催

基本的性格

社会教育施設である。同時に学校教育に利用されることを目的とする。

利用者の学習に役立つ調査・研究、収集・保存、教育・普及活動を行う。また自由な精神が解放されるよう、美的な環境を整備する。

運営方針

①栃木県関係の美術資料、美術作家に関する研究調査、資料の収集保存、展示普及活動を運営の基本とする。

②国内外の美術史および美術状況に幅広く対応する。

③県民が利用しやすい美術館とするため、地域の美術文化の向上、ならびに地域住民の美術に関する生涯学習等に役立つ事業を行う。

④学校教育との連携を重視する。

⑤常に美観を保ち、利用者の心が解放される憩いの場となるよう配慮する。

⑥栃木県立美術館友の会、関係諸機関との連絡協調を密にする。

建 築

本館設計:

川崎清+財団法人建築研究会

協力デザイナー:

家具／柳宗理

照明／石井幹子

テキスタイル／太田麗子

造園／吉村元男・矢野興

施 工:

建築／清水建設株式会社

電気設備／日本電設工業株式会社

空調衛生／日本熱学工業株式会社

家具／株式会社天童木工

新館設計

川崎清+環境・建築研究所

構造／空間設計1級建築士事務所

設備／建築設備設計研究所

施 工:

建築／清水建設株式会社

機械設備／須賀工業株式会社

電気設備／日本電設工業株式会社

敷地面積(㎡) 12,626.83

site area

各階床面積(㎡)

	本 館 main bldg.	新 館 new wing	保管庫棟 storage bldg.	計 total
地 階 besement	1,017.45	—	—	1,017.45
1 階 1st floor	2,014.70	985.69	408.69	3,409.08
2 階 2nd floor	148.58	725.61	200.78	1,074.97
3 階 3rd floor	107.36	—	—	107.36
4 階 4th floor	258.02	—	—	258.02
5 階 5th floor	286.82	—	—	25.00 22.00
塔 屋 penthouse	41.12	—	—	41.12
計 total	3,874.05	1,711.30	609.47	6,194.82

建築面積(㎡)

construction area

本 館 main bldg.	新 館 new wing	保管庫棟 storage bldg.	計 total
2,628.23	1,041.54	416.20	4,085.97

建築系統別床面積(㎡)

area on system

	本 館 main bldg.	新 館 new wing	保管庫棟 storage bldg.	計 total
展示系 gallery (企画展示室) (常設展示室)	1,297.58	1,292.03	—	2,589.61 (41.8%)
保管系 storage	314.24	—	600.15	914.39 (14.8%)
研究系 study	494.46	57.38	—	551.84 (8.9%)
事務管理系 office	338.90	24.60	—	363.50 (5.9%)
機械系 machine	552.68	124.32	9.32	686.32 (11.1%)
その他供用部 others	876.19	212.97	—	1,089.16 (17.6%)
計 total	3,874.05	1,711.30	609.47	6,194.82

利用案内

観覧時間: 午前9時30分から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

休 館 日: 月曜日(月曜日が祝日、振替休日、6月15日にあたる場合は開館して火曜日休館)、12月28日から1月4日まで

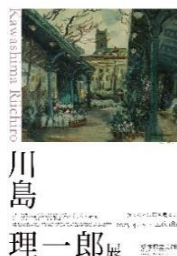
無 料 日: 6月15日(県民の日)、11月3日(文化の日)、6月の第2土曜日およびその翌日(県民の日関連無料日)

美術館までの道順: JR宇都宮駅、東武宇都宮駅から関東バス作新学院・駒生行にて桜通十字下車

友 の 会: 講演会、講習会などの行事を開催。会員が年会費を納め入会することにより、美術館の入館料を友の会が負担する(入会は随時)。

■企画展

川島理一郎展—描くことは即ち見ること KAWASHIMA Riichiro: A Retrospective



ポスター



図録

会 期	= 令和5(2023)年4月15日(土)～6月18日(日)
主 催	= 栃木県立美術館
後 援	= 朝日新聞宇都宮総局、宇都宮コミュニティFM ミヤラジ、NHK宇都宮放送局、エフエム栃木、産経新聞社宇都宮支局、下野新聞社、東京新聞宇都宮支局、とちぎテレビ、栃木放送、日本経済新聞社宇都宮支局、毎日新聞宇都宮支局、読売新聞宇都宮支局

足利市出身の画家・川島理一郎(1886-1971)の没後50年をむかえ、その画業を顕彰する回顧展を開催した。2002年に足利市立美術館と「川島理一郎展」を開催して以来、約20年ぶりの大型の回顧展であり、今回も足利市立美術館と共同開催となった。両館のコレクションに加え、川島のパトロンであった株式会社大林組のコレクションが出品され、初公開となる作品も多くあった。本展の構成は、年代順に川島の画業を追うもので、諸外国や日本国内を旅したその足跡をたどりながら、川島の幅広い交友関係にも着目し、川島がいかんして独自のスタイルを築いたのか、また画壇に与えた影響とはいかなるものだったのかを検証した。画壇での影響力は持ったものの、今日の川島の一般的知名度は高くなく、県民からも栃木県内にこのような画家がいたとは知らなかった、展覧会を機に興味を持ったといった声が寄せられた。郷土の重要な画家として今後も研究、普及が必要であると実感することとなった。

会期中、足利市立毛野中学校(担当:相子みどり教諭)とオンラインによる鑑賞の授業を行った。一年生の授業では、描かれている人物の感情を想像し主題の解釈を行うなど、生徒たちは想像力や表現力をつかって積極的に鑑賞に取り組んだ。二年生の授業では、川島の色づかいや構図のとり方を観察することによって様々な表現方法があることを理解し、生徒たちの制作にも応用された。また、川島が足利出身の画家であるということに生徒たちは驚き、作品を実際に見てみたいという意見もあった。美術鑑賞だけではなく、郷土学習としても意義あるものとなった。

観 覧 者 数	4,791人
開 催 日 数	56日(1日平均 86人)
展 示 点 数	123点
図 録 販 売	169冊
担 当 者	大城茉里恵(研究員)、橋本慎司(副館長兼学芸課長)

作 成 印 刷 物

1)広報宣伝物

ポスター(B2)、チラシ(A4)

2)図録『川島理一郎』

体 裁:19.5×22.5cm、200頁、図版約150点

内 容:テキスト 山下彩華「川島理一郎の芸術観——自然から得た生命の律動」
大城茉里恵「川島理一郎の眼がとらえたもの——大林組コレクションを中心に」
江尻潔「生きている「古代」——金曜会について」
年譜、関連出品作家略歴、主要文献リスト、出品リスト

編 集:大城茉里恵(栃木県立美術館)、江尻潔(足利市立美術館)、山下彩華(足利市立美術館)

デザイン:文京図案室 三木俊一

制 作:足利市立美術館、栃木県立美術館

発 行:足利市立美術館、栃木県立美術館

関 連 企 画

1) ギャラリー・トーク(担当学芸員による解説)

日 時: 4月15日(土)午後3時30分～
5月14日(日)、6月4日(日) 各回とも午後2時～

出品リスト

- ・ 出品作品には章ごとに番号を付した。
- ・ 欠番は足利市立美術館でのみ（2022年10月29日（土）－12月25日（日））での展示。

No.	作者名	作品名	制作年	材質技法	寸法(cm)	所蔵先名
i. アメリカ、そして1910年代のパリへ 1905-1923						
i-1	川島理一郎	題不詳 (門のある家)	1911年	油彩、カンヴァス	31.8×40.9	個人蔵
i-2	川島理一郎	兵士と女	1911年頃	油彩、カンヴァス	85.5×91	個人蔵
i-3	川島理一郎	男	1912年	木炭、紙	62.4×48	栃木県立美術館
i-5	川島理一郎	裸婦デッサン	1912年	木炭、紙	61.7×48	栃木県立美術館
i-6	川島理一郎	二美人図	1913年	油彩、カンヴァス	78.7×99.7	公益財団法人 足利市民文化財団
i-7	川島理一郎	絵日記	1915年	水彩、インク、紙	18×22.5	栃木県立美術館
i-8	川島理一郎	スペイン風景	1910年代	水彩、鉛筆、紙	26×31	足利市立美術館
i-9	川島理一郎	スペイン風景	1915年頃	水彩、紙	25×41	栃木県立美術館
i-10	川島理一郎	コルシカの雨	1920年	水彩、紙	26.7×26.6	栃木県立美術館
i-11	川島理一郎	コルシカ島 (下絵)	1920年	水彩、紙	25.3×40.3	足利市立美術館
i-12	川島理一郎	Paix (平和)	1921年	油彩、カンヴァス	38.2×55.2	公益財団法人 足利市民文化財団
i-13	川島理一郎	少女	1920年代	油彩、カンヴァス	41.1×32	株式会社大林組
i-14	川島理一郎	アダムとイブ (人生)	1921年	油彩、カンヴァス	38.2×60.5	株式会社大林組
i-15	川島理一郎	樹下惜別	1921年	鉛筆、水彩、 墨、紙	42.6×30.5	足利市立美術館
i-16	川島理一郎	SOLITUDE (孤独)	1922年頃	漆、板	65×37.8	公益財団法人 足利市民文化財団
i-17	川島理一郎	夏	1922年	油彩、カンヴァス	33×41	公益財団法人 足利市民文化財団
i-18	川島理一郎	コロポ風景	1920年代	油彩、カンヴァス	50×61	足利市立美術館
i-19	川島理一郎	馬酔木の森 (奈良の森)	1923年	油彩、カンヴァス	49.7×65	足利市立美術館
i-20	川島理一郎	舞妓	1923年	油彩、カンヴァス	65.4×49.8	宇都宮美術館
i-29	川島理一郎	室内装飾図案 (FIRE PLACE)	1920年代	着彩、紙	34.7×47.7	足利市立美術館
i-30	川島理一郎	室内装飾図案 (NORTH)	1920年代	着彩、紙	34.7×54.4	足利市立美術館
i-31	川島理一郎	巴里 見世物小屋(1)	1920年代	木炭、紙	25.1×32.7	足利市立美術館
i-32	川島理一郎	巴里 見世物小屋(2)	1920年代	鉛筆、着彩、紙	25.4×32.7	足利市立美術館
i-33	川島理一郎	洋服地の下絵	1924年頃	水彩、紙	28.3×29.7	久叡館
i-34	川島理一郎	木の下の子 (舞台)	制作年 不詳	水彩、鉛筆、紙	13.5×18.5	原田千町
i-35	川島理一郎	裸婦と山羊	1924年	着彩、墨、絹	31.8×42.8	宇都宮美術館
i-37	川島理一郎	闘争	制作年 不詳	水彩、ペン、インク、紙	10.2×45	原田庸一郎
i-38	藤田嗣治	若い女	1913年	油彩、カンヴァス	36.5×24.2	公益財団法人 大川美術館

i-39	藤田嗣治	若い女性とグラス	1917年	水彩、インク、 テンペラ、紙	25.4×18.8	足利市立美術館
i-40	ナターリア・ゴンチャ ローヴァ	スペイン女	1916-1920 年初め	油彩、カンヴァス	193.4×76.3	東京国立近代美術館
i-41	エミール＝オトン・フ リエス	スケートをする 人々	1919年	油彩、カンヴァス	32×45	足利市立美術館
i-42	エミール＝オトン・フ リエス	サン・マロ風景	1934年	油彩、カンヴァス	54×65	足利市立美術館
i-43	エミール＝オトン・フ リエス	樹立	制作年 不詳	油彩、カンヴァス	27.3×22	ギャラリー碧
i-44	アンリ・ド・ヴァロキエ	プルウーズの城壁	1924-1925 年	油彩、カンヴァス	37.5×52.6	足利市立美術館
参考 -1		ヴィルドラック個展 目録	1922年	印刷物		栃木県立美術館
参考 -2		”Grand Bal des Artistes Travesti Transmental 1923” カタログ	1923年	印刷物		原田千町
参考 -3		川島理一郎旧蔵 アフリカの木彫	制作年 不詳	木		原田千町

ii. 緑の時代 1924-1937

ii-1	川島理一郎	支那芝居	1924年	油彩、カンヴァス	41.3×32	株式会社大林組
ii-2	川島理一郎	道頓堀	1924年	油彩、カンヴァス	30.5×39.5	久叡館
ii-3	川島理一郎	巴里の宿	1924年	油彩、カンヴァス	55×46	栃木県立足利高等学校
ii-4	川島理一郎	オスチヤ廃墟の壁 画	1925年	油彩、カンヴァス	60×50	栃木県立美術館
ii-5	川島理一郎	リュクサンブール公 園	1925年	油彩、カンヴァス	50×60.6	栃木県立美術館
ii-7	川島理一郎	カナル風景	1925年	油彩、カンヴァス	50×60.6	個人蔵
ii-8	川島理一郎	ナポリ、ポッツオリ の岡	1925年	油彩、カンヴァス	38×46	個人蔵(小杉放菴記念 日光美術館寄託)
ii-9	川島理一郎	ナポリ、公園前	1925年	油彩、カンヴァス	37.9×45.8	個人蔵(小杉放菴記念 日光美術館寄託)
ii-10	川島理一郎	魚	1920年代	油彩、カンヴァス	33.5×41.5	株式会社大林組
ii-11	川島理一郎	パリの花市場	1926年	油彩、カンヴァス	50×61	丸紅株式会社
ii-13	川島理一郎	セーヌ河の景 (ボンヌフ)	1926年	油彩、カンヴァス	50.5×61.3	栃木県立美術館
ii-14	川島理一郎	巴里風景 郊外ルエイの町	1920年代	油彩、カンヴァス	50.3×62	株式会社大林組
ii-15	川島理一郎	花	1920年代	油彩、カンヴァス	54.7×46.3	株式会社大林組
ii-16	川島理一郎	鉄と花	1920年代	油彩、カンヴァス	38.5×55.5	株式会社大林組
ii-17	川島理一郎	風景	1920年代	パステル、紙	24.5×33	株式会社大林組
ii-18	川島理一郎	公園のある風景	1927年頃	パステル、紙	32.5×42.5	株式会社大林組
ii-19	川島理一郎	踊皿絵	1920年代	水彩、紙	40.5×35.5	株式会社大林組
ii-20	川島理一郎	第7回国展 ポスター	1928年	リトグラフ、紙	76×45	栃木県立美術館
ii-21	川島理一郎	海金剛	1929年	油彩、カンヴァス	38.3×45.8	公益財団法人 足利市民文化財団
ii-22	川島理一郎	朝鮮風景・土塀	1929年頃	油彩、板	23.7×33.2	株式会社大林組
ii-23	川島理一郎	ボスケ・デ・ コロナード	1930年	油彩、カンヴァス	61×50	足利市立美術館
ii-24	川島理一郎	巴里シャンゼリ ゼーの祭日	1930年	油彩、カンヴァス	32.5×40.5	株式会社大林組

ii-25	川島理一郎	コンコルド広場	1930年代	油彩、カンヴァス	21×26.5	株式会社大林組
ii-26	川島理一郎	[貼り交ぜ帖]	1930年代	鉛筆、水彩、 パステル、紙	31×40.5	足利市立美術館
ii-27	川島理一郎	日劇壁画下絵	1933年頃	水彩、紙	6.2×16.3(×3)	原田千町
ii-28	川島理一郎	黄金の龍	1934年	油彩、板	22.5×27.5	株式会社大林組
ii-29	川島理一郎	承德大観	1934年	油彩、カンヴァス	99.5×116	足利市立美術館
ii-30	川島理一郎	普陀宗乘廟全景 (承德)	1934年	油彩、板	22.5×27	株式会社大林組
ii-31	川島理一郎	承德離宮水心謝	1934年	油彩、板	21.6×27	株式会社大林組
ii-32	川島理一郎	中国風景	1934年頃	油彩、カンヴァス	20.5×21	株式会社大林組
ii-34	川島理一郎	瀑布	1936年	油彩、カンヴァス	80.5×65.5	栃木県立美術館
ii-35	川島理一郎	奔流	1936年	油彩、カンヴァス	38.3×45.5	足利市立美術館
ii-36	川島理一郎	夜叉門	1936年	油彩、カンヴァス	65×91.5	栃木県立美術館
ii-37	川島理一郎	東照宮	1936年	油彩、カンヴァス	38.3×45.5	公益財団法人 足利市民文化財団
ii-38	難波田龍起	ヴィナス	1935年	油彩、カンヴァス	60.5×45.5	個人蔵(公益財団法人 大川美術館寄託)
ii-39	難波田龍起	アクロポリスの空	1938年	油彩、カンヴァス	80.3×65.2	個人蔵(公益財団法人 大川美術館寄託)
ii-40	矢橋六郎	トレド風景	1933年	油彩、板	21.5×27	足利市立美術館
ii-41	矢橋六郎	廃墟	1937年	油彩、カンヴァス	99.8×80.5	東京国立近代美術館
ii-42	矢橋六郎	水を飲む女	1940年	油彩、カンヴァス	73.1×61.2	東京国立近代美術館
ii-43	山口薫	古羅馬の旅	1937年	油彩、カンヴァス	99.8×80.5	東京国立近代美術館

iii. アジアを描く 1938-1945

iii-1	川島理一郎	南開大学 爆撃の跡	1938年頃	油彩、板	21.5×27	株式会社大林組
iii-2	川島理一郎	卍字廊	1938年	油彩、カンヴァス	50×69	個人蔵(小杉放菴記念 日光美術館寄託)
iii-3	川島理一郎	緑陰の回廊	1938年	油彩、カンヴァス	50.4×60.5	個人蔵(小杉放菴記念 日光美術館寄託)
iii-4	川島理一郎	聴鴻樓 (西太后宮殿)	1939年頃	油彩、カンヴァス	27.3×22	株式会社大林組
iii-6	川島理一郎	広東大観	1939年	油彩、カンヴァス	89.5×130.3	足利市立美術館
iii-7	川島理一郎	施米	1939年	油彩、カンヴァス	73×91	栃木県立美術館
iii-8	川島理一郎	橋のある風景	1930年代	油彩、カンヴァス	33.5×45.5	株式会社大林組
iii-9	川島理一郎	タイ国風景	1940年代前半	油彩、板	21×26.5	個人蔵
iii-10	川島理一郎	印度寺の門	510 694 1941年	油彩、カンヴァス	60.6×50	栃木県立美術館
iii-11	川島理一郎	金とモザイクの 回廊	1941年	油彩、カンヴァス	60.6×50	栃木県立美術館
iii-12	川島理一郎	アンコールトム 南門警備の図	1941-42年頃	油彩、カンヴァス	72×59	栃木県立足利高等学校
iii-15	川島理一郎	南方の蘭花図	1940年代	油彩、カンヴァス	61×50.2	栃木県立美術館
iii-16	川島理一郎	マンチリアを被る 女	1943年	油彩、カンヴァス	116.7×91	栃木県立美術館
iii-17	川島理一郎	横たわる女	1943年	油彩、板	15.8×22.7	個人蔵
iii-18	川島理一郎	フィリピンの子供	1943年	鉛筆、水彩、紙	38.2×27	久叡館
iii-19	川島理一郎	空襲(1)	1940年代	インク、水彩、紙	25.9×15.6	足利市立美術館
iii-20	川島理一郎	空襲(2)	1940年代	インク、水彩、紙	25.9×15.8	足利市立美術館

iv. 抽象に向かって 1946-1971

iv-1	川島理一郎	緑陰	1950年代	油彩、カンヴァス	50×60.7	公益財団法人 足利市民文化財団
iv-2	川島理一郎	蘭花百態	1951年	油彩、カンヴァス	180×423.5	栃木県立美術館
iv-3	川島理一郎	サンクルーの 新緑	1951年	油彩、カンヴァス	80×65.1	栃木県立美術館
iv-4	川島理一郎	巴里・二千年祭	1950年代	油彩、カンヴァス	30.7×40	株式会社大林組
iv-5	川島理一郎	秋の巴里	1950年代	油彩、カンヴァス	24.3×33.3	株式会社大林組
iv-6	川島理一郎	蘭花図	1953年	パステル、紙	65.5×53	栃木県立美術館
iv-7	川島理一郎	中禅寺の午后	1950年代	油彩、カンヴァス	22.5×27.5	株式会社大林組
iv-8	川島理一郎	中禅寺の道	1953年頃	油彩、カンヴァス	44.7×52.3	久叡館
iv-9	川島理一郎	中禅寺湖	1954年	油彩、カンヴァス	32.5×23.5	株式会社大林組
iv-10	川島理一郎	湖畔	1953年	油彩、カンヴァス	91×72.7	ギャラリー碧
iv-11	川島理一郎	舞妓	1954年	油彩、カンヴァス	91×73	栃木県立美術館
iv-12	川島理一郎	置物の犬を前に (下絵)	1960年	木炭、パステル、水彩、 紙	31.8×41.3	栃木県立美術館
iv-13	川島理一郎	藁の生活	1960年代	油彩、板	53×45.2	足利市立美術館
iv-14	川島理一郎	熱帯の風	1960年代	油彩、カンヴァス	91×73	個人蔵
iv-15	川島理一郎	風	1962年	油彩、カンヴァス	100×73.2	栃木県立美術館
iv-16	川島理一郎	野草の譜	1962年	油彩、カンヴァス	91×72.8	公益財団法人 足利市民文化財団
iv-17	川島理一郎	熱帯の雨	1962年頃	油彩、カンヴァス	145×112.5	栃木県立美術館
iv-18	川島理一郎	獅子	1963年	油彩、カンヴァス	96.7×145.5	足利市立美術館
iv-19	川島理一郎	雨と風の詩	1966年	油彩、カンヴァス	111.5×145	栃木県立美術館
iv-20	川島理一郎	布をふる女	1966年	油彩、カンヴァス	44.3×51.8	久叡館
iv-22	川島理一郎	蘭花幻想	1968年	油彩、カンヴァス	92×116	栃木県立美術館
iv-23	川島理一郎	カンカン	1960年代	油彩、カンヴァス	14.5×21.3	原田庸一郎
iv-24	川島理一郎	夜のショウ	1968年	油彩、合板	53×45.5	公益財団法人大川美術館
iv-25	川島理一郎	浮世絵の誘惑	1969年	油彩、カンヴァス	117×91	栃木県立美術館
iv-26	川島理一郎	薔薇	1960年代	油彩、カンヴァス	27.3×22	ギャラリー碧
iv-27	川島理一郎	蘭花図	1971年	油彩、カンヴァス	44×36.5	久叡館
参考	川島理一郎	スケッチ集				原田千町

富井大裕展 今日の彫刻 Motohiro Tomii : Sculptures



ポスター



図録

会期	=	令和5(2023)年7月4日(土)～9月3日(日)
主催	=	栃木県立美術館
協力	=	Yumiko Chiba Associates
後援	=	朝日新聞社宇都宮総局、宇都宮コミュニティFMミヤラジ、エフエム栃木、産経新聞社宇都宮支局、下野新聞社、東京新聞宇都宮支局、とちぎテレビ、栃木放送、日本経済新聞社宇都宮支局、毎日新聞社、宇都宮支局、読売新聞宇都宮支局

多種多様な事務用品や道具類などに、積み上げる、並べる、重ねる、束ねる、折り曲げる、立てる、寝かせる、傾斜させるなどというシンプルな日常的行為を付加することにより富井大裕(とみいもとひろ、1973-)は、既製品から本来の意味や機能を解放し、無二の彫刻としての新たな様相を現前させる。

大量生産された消費財は、富井によって基本的機能をはく奪されながらも、オリジナルの形態と色彩を残したまま、モノから作品へと変換される。この変容は社会システムの中で個々人がなう役割から各人が自由へと解放されるプロセスのメタファーともなっている。また生産・流通・消費・廃棄(死)というモノの経済プロセスは中立的に停止されるとともに、制作・展示・消費・保存(不死)というプロセスを持つ美術品の特異性をも浮き彫りにする。

こうして彫刻家の能動性と鑑賞者の受動性は中動的に開かれ、美術館と家庭や学校やオフィスが等価で脱機能的な自由の場として生起する。家庭用品や文房具、事務用品が彫刻に変容し、かつ彫刻が生活世界へと還元される往還システムによって、富井大裕の新作を中心とした約9シリーズ／約45件／約2800点の“彫刻”とともに、私たちの持つ創造性を自由に解放する機会を探った。

観覧者数	3,556人
開催日数	50日(1日平均71人)
展示点数	64点
担当者	山本和弘(主任研究員)

作成印刷物

1)広報宣伝物

ポスター(B2)、チラシ(A4)

2)図録『富井大裕 今日の彫刻』

体裁: A5版、184頁
執筆: 沢山遼(美術評論家)、山本和弘
制作: 栃木県立美術館
発行: 水声社

関連企画

1)アーティスト・トーク

日時: 7月8日(土) 15時30分～16時30分
講師: 富井大裕

出品リスト

	作品名	制作年	材質技法	寸法(cm)
今日の彫刻				
1	今日の彫刻	2011-	写真	12.7×17.8(×2827点)
2	今日の彫刻 (110908-160908)	2011-2016	デジタル画像(1612枚、スライドショー形式)、モニター	26分52秒 モニター 9.8×12×4cm
メロー				
3	メロー	2020年	ポリプロピレン製湯桶、ポリプロピレン製風呂椅子、鉄、ボルト、ナット、木材	175.5×24×25
4	メロー#2	2020年	ポリプロピレン製湯桶、ポリプロピレン製手桶、鉄、ボルト、ナット	184×38×38
旅行者の制作				
5	旅行者の制作#1	2017年	スーツケース、布、木材、ボルト、ナット、ワッシャー、荷物(本)	118×162×29
6	旅行者の制作#2	2017年	スーツケース、布、木材、ボルト、ナット、ワッシャー、荷物(本)	97×220×37
7	旅行者の制作#3	2017年	スーツケース、布、木材、ボルト、ナット、ワッシャー、荷物(本)	207×177×37
8	旅行者の制作(試作)	2017年	スーツケース、布、木材、ボルト、ナット、ワッシャー、荷物(本)	118×162×29
紙屑と空間				
9	紙屑と空間#1	2020年	紙、ゴミ箱、ボルト、ナット	43×24×34
10	紙屑と空間#2	2020年	紙、ゴミ箱、ボルト、ナット	27.5×22.3×22.3
11	紙屑と空間#3	2020年	紙、ゴミ箱、ボルト、ナット	35.8×22.5×22.5
12	紙屑と空間#4	2020年	紙、ゴミ箱、ボルト、ナット	35.5×22.3×22.3
13	紙屑と空間#5	2020年	紙、ゴミ箱、ボルト、ナット	95×46.5×55
14	紙屑と空間#6	2020年	紙、ゴミ箱、ボルト、ナット	35.8×22.5×22.5
15	紙屑と空間#7	2020年	紙、ゴミ箱、ボルト、ナット	35.8×22.5×22.5
16	紙屑と空間#8	2020年	紙、ゴミ箱、ボルト、ナット	95×46.5×55
17	紙屑と空間#9	2020年	紙、ゴミ箱、ボルト、ナット	26×19.5×19.5
18	紙屑と空間#10	2020年	紙、ゴミ箱、ボルト、ナット	67×38×45.5
19	紙屑と空間#11	2020年	紙、ゴミ箱、ボルト、ナット	52×37×26.8
20	紙屑と空間#12	2020年	紙、ゴミ箱、ボルト、ナット	52×29.6×46
21	紙屑と空間#13	2020年	紙、ゴミ箱、ボルト、ナット	48×46×46
22	紙屑と空間#14	2020年	紙、ゴミ箱、ボルト、ナット	60×46.5×32
23	紙屑と空間#15	2020年	紙、ゴミ箱、ボルト、ナット	30.5×15×28.5
24	紙屑と空間#16	2020年	紙、ゴミ箱、ボルト、ナット	30×23.4×23.4

25	紙屑と空間#17	2020年	紙、ゴミ箱、ボルト、ナット	28.4×21.5×21.5
26	紙屑と空間#18	2020年	紙、ゴミ箱、ボルト、ナット	38×32×32
27	紙屑と空間#19	2020年	紙、ゴミ箱、ボルト、ナット	67×38×45.5

H鋼と紙袋

28	H鋼と紙袋 #1	2020年	鉄、紙袋、ボルト、ワッシャー、ナット	235×172.5×35
29	H鋼と紙袋 #2	2020年	鉄、紙袋、ボルト、ワッシャー、ナット	239.5×192.3×51.5

ブック／エンド／スカルプチャー

30	THOT	2018年	ブックエンド、ポスター (オフセット印刷、デザイン： 川村格夫)、台座	36×72.8×51.5
31	ITO	2018年	ブックエンド、ポスター (オフセット印刷、デザイン： 川村格夫)、台座	34×72.8×51.5
32	CARL	2023年	ブックエンド、ポスター (オフセット印刷、デザイン： 川村格夫)、台座	34.3×72.8×51.5
33	GB	2023年	ブックエンド、ポスター (オフセット印刷、デザイン： 川村格夫)、台座	35×72.8×51.5
34	ITO#2	2023年	ブックエンド、ポスター (オフセット印刷、デザイン： 川村格夫)、台座	30.6×72.8×51.5
35	THOT#2	2023年	ブックエンド、ポスター (オフセット印刷、デザイン： 川村格夫)、台座	38.5×72.8×51.5

嵩張りと連結

36	嵩張りと連結 #1	2023年	バインダー、ボルト、ナット	50×36×32.5
37	嵩張りと連結 #2	2023年	バインダー、ボルト、ナット	84×56×5
38	嵩張りと連結 #3	2023年	バインダー、ボルト、ナット	57×59×3.4
39	嵩張りと連結 #4	2023年	バインダー、ボルト、ナット	56×32×30.2
40	嵩張りと連結 #5	2023年	バインダー、ボルト、ナット	60×57×21.5
41	嵩張りと連結 #6	2023年	バインダー、ボルト、ナット	60×56×8.5
42	嵩張りと連結 #7	2023年	バインダー、ボルト、ナット	90×75×10.5
43	嵩張りと連結 #9	2023年	バインダー、ボルト、ナット	63×74×12
36	嵩張りと連結 #1	2023年	バインダー、ボルト、ナット	50×36×32.5
37	嵩張りと連結 #2	2023年	バインダー、ボルト、ナット	84×56×5
38	嵩張りと連結 #3	2023年	バインダー、ボルト、ナット	57×59×3.4
39	嵩張りと連結 #4	2023年	バインダー、ボルト、ナット	56×32×30.2
40	嵩張りと連結 #5	2023年	バインダー、ボルト、ナット	60×57×21.5
41	嵩張りと連結 #6	2023年	バインダー、ボルト、ナット	60×56×8.5
42	嵩張りと連結 #7	2023年	バインダー、ボルト、ナット	90×75×10.5
43	嵩張りと連結 #9	2023年	バインダー、ボルト、ナット	63×74×12

トルソ、或いはチャーハン

44	トルソ、或いはチャーハン#1	2017年	ゴミ箱の蓋、蛍光灯、ビス	53×32×24
45	トルソ、或いはチャーハン#2	2022年	ゴミ箱の蓋(プラスチック、鉄)、針金、ビス	33.5×43×16.5
46	トルソ、或いはチャーハン#3	2022年	ゴミ箱の蓋、ボルト、ナット、ビス	52×45×13
47	トルソ、或いはチャーハン#4	2022年	ゴミ箱の蓋、蛍光灯、ビス	38×120×36
48	トルソ、或いはチャーハン#11	2023年	金属製の箱の蓋、ステンレスたわし、磁石	20×16×7
49	トルソ、或いはチャーハン#12	2023年	金属製の箱の蓋、ステンレス、金網、ボルト、ナット	69×20×4.5
50	トルソ、或いはチャーハン#15	2023年	鉄、塗料、枝、ボルト、ナット	55×65×10
51	トルソ、或いはチャーハン#18	2023年	空き缶、鉄、クリップ	110×15×5.5
52	トルソ、或いはチャーハン#19	2023年	ゴミ箱、アルミ、塗料、ボルト、ナット	19×19×26

線の関係

53	線の関係 #1	2022年	塵取り、ボルト、ナット	49×32×86.3
54	線の関係 #2	2022年	塵取り、ボルト、ナット	35×80×49.6
55	線の関係 #3	2022年	塵取り、ボルト、ナット	30×33×95.6
56	線の関係 #4	2023年	塵取り、ボルト、ナット	73×55×71.5
57	線の関係 #5	2023年	塵取り、ボルト、ナット	73×34×59.7
58	線の関係 #6	2023年	塵取り、ボルト、ナット	70×106×38
59	線の関係 #7	2023年	塵取り、ボルト、ナット	73×54×31

面の存在

60	面の存在(脚立と面 #1)	2023年	鉄、脚立、ボルト、ナット	112×84.5×85.4
61	面の存在(脚立と面 #2)	2023年	鉄、脚立、ボルト、ナット	112×190×85.4
62	面の存在(ゴミ箱と面 #1)	2023年	石膏、ゴミ箱、ボルト、ナット	51×58×50
63	面の存在(ゴミ箱と面 #2)	2023年	石膏、ゴミ箱、ボルト、ナット	52×60×51.5
64	面の存在(床と面)	2023年	ガラス、辞書	4×94.5×94.5
60	面の存在(脚立と面 #1)	2023年	鉄、脚立、ボルト、ナット	112×84.5×85.4
61	面の存在(脚立と面 #2)	2023年	鉄、脚立、ボルト、ナット	112×190×85.4
62	面の存在(ゴミ箱と面 #1)	2023年	石膏、ゴミ箱、ボルト、ナット	51×58×50
63	面の存在(ゴミ箱と面 #2)	2023年	石膏、ゴミ箱、ボルト、ナット	52×60×51.5
64	面の存在(床と面)	510694	ガラス、辞書	4×94.5×94.5

栃木県誕生150年記念
下野新聞創刊145周年記念

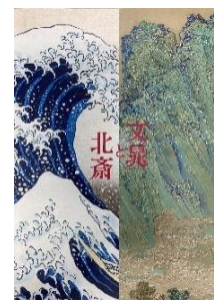
文晁と北斎——このふたり、ただものにあらず

BUNCHOU and HOKUSAI

From Hiroshima Museum of Art Collection



ポスター



図録

会 期	=	令和5(2023)年10月21日(土)～12月24日(日)
主 催	=	栃木県立美術館、下野新聞社
後 援	=	朝日新聞宇都宮総局、宇都宮コミュニティFM ミヤラジ、NHK宇都宮放送局、エフエム栃木、産経新聞社宇都宮支局、東京新聞宇都宮支局、とちぎテレビ、栃木放送、 日本経済新聞社宇都宮支局、毎日新聞宇都宮支局、読売新聞宇都宮支局

江戸時代中期から後期(18世紀末から19世紀前半)にかけて、谷文晁(1763-1840)と葛飾北斎(1760-1849)の人気ぶりは凄まじいものがあったが、この二人はほとんど同じ時代を生き、制作と研究に力を注いだ。その二人の作品を展覧することで、江戸時代中・後期の絵画受容のあり方を想像してみたいと考えた。文晁による初公開の《東海道・中山道・木曾街道真景図巻》など約40点と、同じく初公開を含む北斎の肉筆画など約40点、さらには世界的に有名な「神奈川沖浪裏」、赤富士としても名高い「凱風快晴」など《富嶽三十六景図》全46図を展示紹介(半期ずつ)することにより、江戸絵画の二大ブランドとなった二人の作品の受容の様相を概観することができた。北斎人気も要因として多くの来館者が訪れ、結果として文晁の作品を多く目にしてもらうことにも成功した。また、下野新聞社との実行委員会形式での共催も、両者で連携して多くの成果を挙げることができた。

観 覧 者 数	26,542人
開 催 日 数	56日(1日平均 474人)
展 示 点 数	132点
図 録 販 売	1,228冊
担 当 者	橋本慎司(副館長兼学芸課長)、志田康宏(主任)

作 成 印 刷 物

1) 広報宣伝物

ポスター(B2)、チラシ(A4)

2) 図録『文晁と北斎』

体 裁: 29.0×21.2cm、177頁、図版約150点

内 容: テキスト 橋本慎司「文晁と北斎——ただものではないふたり」
板倉聖哲「文晁・北斎と中国絵画」
樋口一貴「北斎の画業と肉筆画」
作品解説、落款印章、年譜、主要文献リスト、出品リスト

編 集: 橋本慎司(栃木県立美術館)

デザイン: 桑畑吉伸

制 作: リーヴル

発 行: 栃木県立美術館

関 連 企 画

1) 「放談——文晁と北斎、ただものではないふたり」

日 時: 令和5(2023)年10月21日(土) 午後3時～

講 師: 板倉聖哲(東京大学東洋文化研究所教授)

樋口一貴(十文字学園女子大学教授)

橋本慎司(当館副館長兼学芸課長)

会 場: 集会室

2) ギャラリー・トーク(担当学芸員による解説)

日 時: 10月21日(土)、11月18日(土)、12月16日(日) 各回とも午後1時30分～

3) 音声ガイド

解説をPodcastにより無償提供

ナビゲーター: 永岡由貴(役者・ナレーター／栃木県出身)

出品リスト

No.	作者名	作品名	制作年	材質・技法	員数	寸法(cm)	所蔵者
第1章 文晁、ただものにあらず							
1	谷文晁	文晁夫妻像		紙本墨画	二幅	(右)99.1× 29.5(左)47 ×26	
2	谷文晁	溪山無尽図巻	1786年	紙本墨画淡彩	一巻	32.6×612.7	秋田市立 千秋美術館
3	谷文晁、 松平定信題詩	溪山奇勝図巻	1797年頃	紙本墨画淡彩	一巻	28.9×410.4	秋田市立 千秋美術館
4	谷文晁	夏山霽靄図	1795年	紙本墨画淡彩	一幅	137×54.2	府中市美術館
5	谷文晁	農耕図下図巻物	1796年	紙本着色	一巻	31.6×10	
6	谷文晁	米法山水図	1798年	紙本墨画	一幅	127.4×55.3	
7	谷文晁	高士観瀑図	1804年	絹本着色	一幅	140.5×70	秋田市立 千秋美術館
8	谷文晁	金碧青緑山水図	1806年	絹本着色	一幅	120.8×50.7	
9	谷文晁	青緑山水図		絹本着色	一幅	94.3×34.3	
10	谷文晁筆、 菅茶山賛	秋山風雨図	1813年	紙本着色	一幅	71.3×70.5	
11	谷文晁	水墨離合山水図	1818年	絹本墨画	二幅	各145.9×41.2	
12	谷文晁筆、 古賀精里賛	青緑山水図	1810年	絹本着色	一幅	141×119	
13	谷文晁	山水人物図	1825年	絹本着色	一幅	98.7×39.8	
14	谷文晁	前赤壁図	1826年	紙本墨画淡彩	一幅	178×94.5	栃木県立 美術館
15	谷文晁	前赤壁図	1826年	絹本墨画淡彩	一幅	107×41.8	足立区立 郷土博物館
16	谷文晁	青緑赤壁山水図	1826年	絹本着色	一幅	126.1×53.1	
17	谷文晁	山水図	1829年	絹本着色	一幅	159.1×48.5	
18	谷文晁筆、 松平定信賛	龍図		紙本墨画	一幅	133×57.2	
19	谷文晁	飛瀑之図		絹本墨画	一幅	98.7×34.9	
20	谷文晁	瀑布之図		紙本墨画	一幅	129.4×29.7	
21	谷文晁	月下吟歩図(団扇)		紙本着色	一扇	高さ18.2 下弦15 上弦41	
22	谷文晁	蘇東坡図	1806年	絹本着色	一幅	101.5×44.6	秋田市立 千秋美術館
23	谷文晁	羽公採芝図		絹本着色	一幅	96.7×30.8	秋田市立 千秋美術館
24	谷文晁	蘭亭聚会図		絹本着色	一幅	141×60.2	秋田市立 千秋美術館

25	谷文晁	慈母観音図		絹本着色	一幅	117.7×57	山形美術館・長谷川コレクション
26	谷文晁	仏涅槃図	1802年	絹本着色	一幅	143.5×115.5	大統寺(白河市歴史民俗資料館寄託)
27	谷文晁	八仙人図	1825年	絹本着色	三幅	各124.2×49.6	福島県立博物館
28	谷文晁	鍾馗図		綿本墨画	一幅	193.9×90.2	
29	谷文晁、抱一他合作	茶道具図	1826年	絹本着色	一幅	63.9×88.8	
30	谷文晁他	谷文晁・亀田鵬斎他合作		絹本墨画淡彩	一幅	91.5×31.5	足立区立郷土博物館
31	谷文晁	花卉図		絹本着色	一幅	24×22.2	
32	谷文晁	桃に綬帯鳥・芥子に蝶・牡丹に蝶図(花鳥図)	1818年	絹本着色	三幅	各101.4×29.8	摘水軒記念文化振興財団
33	谷文晁	駱駝図	1825年	絹本着色	一幅	98×42	摘水軒記念文化振興財団
34	谷文晁	花鳥図稿、過眼図稿		紙本墨画淡彩	二冊		

第2章 北斎、ただものにあらず

35	葛飾北斎	海老図	1798～1810頃	紙本着色	一幅	26×15.5	
36	葛飾北斎	山鳩図	1798～1810頃	紙本墨画淡彩	一幅	25.4 × 25.4	
37	葛飾北斎	糸瓜に雀図	1798～1810頃	紙本着色	一幅	37.8 × 25	
38	葛飾北斎	糸瓜に雀図	1798～1810頃	絹本着色	一幅	35.5×25	摘水軒記念文化振興財団
39	葛飾北斎	鶏竹図	1798～1810頃	絹本着色	一幅	110 × 50.2	
40	葛飾北斎	山水図	1798～1810頃	紙本墨画	一幅	105 × 36.3	
41	葛飾北斎	菊図	1798～1810頃	紙本着色	一幅	92 × 25.8	
42	葛飾北斎	潮干狩図		絹本着色	一幅	32.5 × 47.9	
43	無落款、大田南畝賛	三美人図		絹本着色	一幅	46.5×66	摘水軒記念文化振興財団
44	葛飾北斎	立美人図	1810頃～1819頃	絹本着色	一幅	108 × 40.5	
45	葛飾北斎	合鏡美人図	1810頃～1819頃	絹本着色	一幅	94.2 × 33	
46	葛飾北斎	楊貴妃図		絹本着色	一幅	73.6 × 28.3	
47	無款、十返舎一九賛	女達磨図		絹本着色	一幅	39.5 × 48.6	
48	葛飾北斎	雲龍図	1834年	絹本墨画	一幅	97.5 × 24.2	
49	葛飾北斎	丹霞焼仏図		紙本着色	一幅	29.2 × 43.4	
50	葛飾北斎	神仙人物戯画図のうち	1839年	絹本着色	二幅	各73 × 30.8	
51	葛飾北斎	宝珠掃き・水鳥図	1839年	紙本着色	二幅	各30.2 × 47	
52	葛飾北斎	捉魚図	1839年	紙本墨画淡彩	一幅	29.1 × 55.3	
53	葛飾北斎	珊瑚引き図	1839年	紙本着色	一幅	30.5 × 58	
54	葛飾北斎	出山釈迦図	1840年	紙本着色	一幅	100.7 × 28.6	
55	葛飾北斎	出世風景図	1841年	絹本著色	一幅	102.4 × 35.7	
56	葛飾北斎	雪中驚図	1843年	紙本着色	一幅	118.5×54	摘水軒記念文化振興財団
57	葛飾北斎	高砂図	1843年	絹本着色	一幅	102.4 × 32.8	

58	葛飾北斎	羅漢図	1844年	紙本着色	一幅	107.3 × 36	
59	葛飾北斎	風神図	1844年	紙本着色	一幅	89.7 × 28.6	
60	葛飾北斎	逆筆布袋図	1844年	紙本墨画淡彩	一幅	96.8 × 29	
61	葛飾北斎	燕図	1844年	紙本着色	一幅	96.2 × 25.1	
62	葛飾北斎	月下芋洗図	1846年	絹本着色	一幅	33.3 × 44.8	
63	葛飾北斎	月下杵人図	1846年	紙本着色	一幅	92.5 × 29	
64	葛飾北斎	鍾馗図	1847年	紙本墨画	一幅	62.8 × 24.6	
65	葛飾北斎	大黒天図	1847年	紙本着色	一幅	57.3 × 29.6	
66	葛飾北斎	松に富士図	1847年	絹本着色	一幅	28.7 × 37.6	
67	葛飾北斎	月兎図	1847年	絹本着色	一幅	82.6 × 28.2	
68	葛飾北斎	富士越龍図	1848年	絹本着色	一幅	111.2 × 29.1	
69	葛飾北斎	唐獅子図	1849年	絹本着色	一幅	73 × 29.5	
70	葛飾北斎	生首の図	1842年	絹本着色	一幅	27.4 × 43.1	
71	葛飾北斎	弘法大師修法図		紙本着色	一幅	150 × 240	西新井大師 総持寺
72	葛飾北斎	今様櫛きん雛形		紙本木版	一冊	12.6 × 18	たばこと塩の博 物館
73	無銘	富士に人物図きせる			一本	21(長さ)	たばこと塩の博 物館

第3章 旅する絵師、文晁—真景図と富士山図

74	川村寿庵編、 谷文晁画、 松伯堂版	名山図譜		紙本木版	一冊	30.2 × 19.5	
75	谷文晁	東海道・中山道・ 木曾路真景図巻		紙本着色	三巻	本紙横	
		1巻第1図		紙本着色		17.2 × 17.3	
		1巻第2図		紙本着色		17.2 × 44.2	
		1巻第3図		紙本着色		17.2 × 30.2	
		1巻第4図		紙本着色		17.2 × 64.5	
		1巻第5図		紙本着色		17.2 × 78.2	
		1巻第6図		紙本着色		17.2 × 27	
		1巻第7図		紙本着色		17.2 × 57.2	
		510694		紙本着色		17.2 × 44.9	
		1巻第9図		紙本着色		17.2 × 43.4	
		2巻第1図		紙本着色		17.2 × 42.8	
		2巻第2図		紙本着色		17.2 × 42.5	
		2巻第3図		紙本着色		17.2 × 44.8	
		2巻第4図		紙本着色		17.2 × 31.2	
		2巻第5図		紙本着色		17.2 × 49.1	
		2巻第6図		紙本着色		17.2 × 29.9	
		2巻第7図		紙本着色		17.2 × 24.1	
		2巻第8図		紙本着色		17.2 × 32.9	
		2巻第9図		紙本着色		17.2 × 59.9	
		2巻第10図		紙本着色		17.2 × 26.7	
		2巻第11図		紙本着色		17.2 × 29.7	

		2巻第12図		紙本着色		17.2×23.6	
		2巻第13図		紙本着色		17.2×26.4	
		3巻第1図		紙本着色		17.2×16	
		3巻第2図		紙本着色		17.2×25.8	
		3巻第3図		紙本着色		17.2×17.5	
		3巻第4図		紙本着色		17.2×15.3	
		3巻第5図		紙本着色		17.2×16.3	
		3巻第6図		紙本着色		17.2×45.3	
		3巻第7図		紙本着色		17.2×31.5	
		3巻第8図		紙本着色		17.2×51	
		3巻第9図		紙本着色		17.2×25.7	
		3巻第10図		紙本着色		17.2×53.4	
		3巻第11図		紙本着色		17.2×45.1	
76	伝 谷文晁	真景画帖 (御巡見時縮写)	1793年	紙本着色	一帖(10図)	各28.6×34.1	
77		河口湖富士真景図	1795年	絹本着色	一幅	54.5×94.5	秋田市立 千秋美術館
78	谷文晁	富士山図		絹本墨画	一幅	11×16.8	
79	谷文晁	富士山図	1812年	絹本墨画淡彩	一幅	68.3×106.6	たばこと塩の博 物館
80	谷文晁	薩嶺之暁色(富士山図)	1808年	紙本着色	一幅	44.4×73.5	
81	谷文晁	原吉原真景		絹本着色	一幅	33.2×54.4	
82	谷文晁	富嶽図屏風		紙本着色	四曲一隻	159.3×292	上野記念館
83	谷文晁	富嶽図屏風		紙本着色金砂子	六曲一隻	196.5×371.8	上野記念館
84	谷文晁	那須眺望図	1799年	絹本着色	一幅	47.3×71.3	栃木県立 美術館
85	谷文晁筆、松平定 信・紫野独庵賛	隅田川兩岸図		絹本着色	一幅	59.4×112	群馬県立近代 美術館・ 戸方庵井上コ レクション
86	谷文晁	京名所画冊		紙本着色	一帖	24.2 × 18.2	

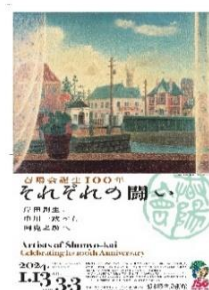
第4章 北斎芸術の極み—世界に誇る《富嶽三十六景》

87	葛飾北斎	富嶽三十六景(全46図)					大田区立 龍子記念館
-1		神奈川沖浪裏	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25×36.8	
-2		凱風快晴	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	24.5×36.9	
-3		山下白雨	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.5×38.2	
-4		深川万年橋下	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.3×37.3	
-5		東都駿台	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	26.2×38.5	
-6		青山円座松	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	26.3×38.4	
-7		武州千住	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	26.3×38.5	
-8		甲州犬目峠	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.3×38.1	
-9		尾州不二見原	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.8×38	
-10		武州玉川	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.5×38.5	
-11		武陽佃島	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.5×37.7	

-12	相州七里浜	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.3×37.9
-13	信州諏訪湖	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.3×37.6
-14	甲州石班沢	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.3×37.3
-15	常州牛堀	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.3×37.1
-16	相州梅沢左	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.2×37.9
-17	甲州三島越	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.2×37.2
-18	東都浅草本願寺	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.1×36.7
-19	駿州江尻	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.3×37.3
-20	遠江山中	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	26.2×38.5
-21	礪川雪ノ旦	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.2×37
-22	下目黒	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.3×37.2
-23	東海道吉田	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	26.3×38.6
-24	上総ノ海路	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.3×37.1
-25	登戸浦	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	26.3×38.6
-26	江戸日本橋	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.3×37.2
-27	隅田川関屋の里	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25×37.1
-28	相州箱根湖水	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.2×38
-29	甲州三坂水面	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.4×37.9
-30	東海道程ヶ谷	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.1×37.1
-31	江都駿河町三井 見世略図	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.1×37.2
-32	御厩川岸より両国橋 夕陽見	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.2×38.3
-33	五百らかん寺さざみどう	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.5×37.9
-34	隠田の水車	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.3×37.3
-35	相州江の島	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.3×37.8
-36	東海道江尻田子の浦 略図	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.2×37.1
-37	本所立川	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.1×37.5
-38	從千住花街眺望ノ不 二	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	26.2×37.6
-39	東海道品川御殿山ノ 不二	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.3×37.2
-40	甲州伊沢暁	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	23.9×35.5
-41	身延川裏不二	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	24.9×37.3
-42	相州仲原	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.3×37.2
-43	駿州大野新田	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	24.5×37.1
-44	駿州片倉茶園ノ不二	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	24.3×36.7
-45	東海道金谷ノ不二	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	25.4×37.3
-46	諸人登山	1830年～32年頃	木版多色刷	大判一枚	24.8×36.9

春陽会誕生100年 それぞれの闘い 岸田劉生、中川一政から岡鹿之助へ

Artists of Shunyo-kai Celebrating Its 100th Anniversary



ポスター



図録

会期	=	令和6(2024)年1月13日(土)～3月3日(日)
主催	=	栃木県立美術館
共催	=	一般社団法人 春陽会、日本経済新聞社
特別協力	=	東京国立近代美術館
後援	=	朝日新聞宇都宮総局、宇都宮コミュニティFMミヤラジ、NHK宇都宮放送局、 エフエム栃木、産経新聞社宇都宮支局、下野新聞社、東京新聞宇都宮支局、 とちぎテレビ、栃木放送、毎日新聞社宇都宮支局、読売新聞宇都宮支局

1922年、再興院展洋画部から脱退した小杉放菴、山本鼎、森田恒友、長谷川昇らと、草土社の岸田劉生や木村莊八らを中心としたメンバーによって春陽会が発足し、翌23年に第1回展を開催した。それぞれの個性を重視する各人主義をうたい、梅原龍三郎や萬鐵五郎などの著名画家を揃え、油彩、水墨画、素描をジャンルの隔てなく紹介するなど、その宣言通り「芸術は形式で差別されない」ものだった。

春陽会では、西洋の最先端の美術動向に眼を向けて精力的に紹介しようとするとともに、自らの内面にある風土的なものや土着的なもの、日本的なものや東洋的なものを表現することを意識する画家が次々に登場する。「日本人の絵画」への志向は、春陽会の大きな特徴の一つといえる。

結成から100年を迎えた春陽会は、いかにして時代と連動しつつ、発展をとげ、今日に続く足場を築いたのか。本展では草創期から1950年代頃までに活躍した画家たちの作品を中心に多くの名品を紹介し、日本近代美術史における春陽会の意義を改めて検証した。

なお、東京ステーションギャラリー、栃木県立美術館、長野県立美術館、碧南市藤井達吉現代美術館の4館を巡回する展覧会として企画された。

観覧者数	4,011人
開催日数	44日(1日平均91人)
展示点数	174点(展示替えあり)
図録販売	128冊
担当者	木村理恵子(特別研究員)

作成印刷物

1)広報宣伝物

ポスター(B2)、チラシ(A4)

2)図録

体裁	B5判、240頁、図版 約250点
内容	テキスト 木本文平「春陽会誕生への序奏」 松本透「春陽会の戦後—その「近代化」をめぐる」 入江観「春陽会のDNA」 田中晴子「中川一政が見た木村莊八—異質なる二人」 木村理恵子「戦前期の春陽会の「日本人の絵画」への志向—同時代の批評から」 鈴木幸野「長野における春陽会の研究会活動—鹿苑会を磁場として」 田邊咲智「「愛美社」から「中部春陽会」へ—大澤鉦一郎の活躍について」 原田光「資料解説—手紙で瞥見、戦時中の春陽会」 作家・作品紹介、主要参考文献、作品目録、春陽会略年譜

編集・制作: 東京ステーションギャラリー、栃木県立美術館、長野県立美術館、
碧南市藤井達吉現代美術館、株式会社アルテヴァン

翻訳: 小川紀久子

ブックデザイン: アイハラケンジ(halken LLP)

発行所: 株式会社アルテヴァン

印刷・製本: 株式会社シナノ

©2023東京ステーションギャラリー、栃木県立美術館、長野県立美術館、
碧南市藤井達吉現代美術館、一般社団法人 春陽会、株式会社アルテヴァン

関 連 企 画

1)リレー・ギャラリートーク(各館の学芸員による作品解説)

日 時: 1月13日(土)午後3時30分～4時30分

講 師: 田中晴子氏(東京ステーションギャラリー学芸室長)

鈴木幸野氏(長野県立美術館学芸員)

田邊咲智氏(碧南市藤井達吉現代美術館学芸員)

会 場: 企画展示室

2)鼎談「小杉放菴と日光」

日 時: 1月22日(日)午後2時～

講 師: 入江観氏(洋画家・春陽会会員)

原田光氏(無言館手伝い・元岩手県立美術館館長)

土方明司氏(川崎市岡本太郎美術館館長)

会 場: 集会室

3)ギャラリートーク(担当学芸員による作品解説)

日 時: 2月4日(日)、3月3日(日)いずれも午後2時～3時

会 場: 企画展示室

出品リスト

	作者名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(cm)	所蔵先
第1章 始動：第3の洋画団体誕生						
1-1	小杉放菴	双馬図	1925年	油彩、カンヴァス	53×72.9	小杉放菴記念日光美術館
1-2-1	倉田白羊	冬の林檎畑	1923年	油彩、カンヴァス	45.8×61	常楽寺美術館
1-2-2	倉田白羊	冬の林檎畑スケッチ	1923年	紙本着色、墨	29.2×25.8	常楽寺美術館
1-2-3	倉田白羊	崖を負う家	1928年	油彩、カンヴァス	38×45.5	常楽寺美術館
1-3-2	山本鼎	独鈷山麓秋意	1926年	油彩、カンヴァス	38×45.5	上田市立美術館
1-4-1	小林徳三郎	鯛	1925年頃	油彩、カンヴァス	27×35	碧南市藤井達吉現代美術館
1-5-2	萬鐵五郎	照りつつ降る日	1923年	水彩、鉛筆、紙	31×47	岩手県立美術館
1-6-1	石井鶴三	浴泉	1923年	水彩、紙	36.2×56.7	松本市美術館
1-6-2	石井鶴三	浴女	1925年	油彩、カンヴァス	44.8×32.7	碧南市藤井達吉現代美術館
1-6-3	石井鶴三	温泉	1926年	油彩、カンヴァス	40.7×27.3	東京藝術大学
1-7-1	梅原龍三郎	カンヌ	1920年	油彩、カンヴァス	46.5×55.5	東京国立近代美術館
1-7-2	梅原龍三郎	裸婦図	1921年	油彩、カンヴァス	65.5×50	東京国立近代美術館
1-7-3	梅原龍三郎	臥裸婦図	1924年	油彩、カンヴァス	45.5×60.5	茨城県近代美術館
1-7-4	梅原龍三郎	榛名湖	1924年	油彩、カンヴァス	60.6×72.7	
1-8-1	足立源一郎	チューリップ	1917/20年	油彩、カンヴァス	45.5×53	京都国立近代美術館
1-8-2	足立源一郎	ヴェランダ	1926年	油彩、カンヴァス	54.3×65.5	京都国立近代美術館
1-9-1	田中善之助	パリの女	1920-22年	油彩、カンヴァス	60.5×50	千葉県立美術館

1-10-1	岸田劉生	童女飾髪之図	1921年	紙本墨画着色	142.8×37.2	碧南市藤井達吉現代美術館
1-10-3	岸田劉生	麗子弹絃図	1923年	油彩、カンヴァス	40.9×31.7	京都国立近代美術館
1-10-4	岸田劉生	白狗図	1923年	絹本着彩	33.4×42.6	福島県立美術館 (河野保雄コレクション)
1-10-5	岸田劉生	籠中脂香	1923年	油彩、カンヴァス	32.1×33.5	茨城県近代美術館
1-10-6	岸田劉生	林六先生閑居図	1923年	紙本着色	140.2×34.1	個人蔵(世田谷美術館寄託)
1-10-7	岸田劉生	竹籠含春	1923年	油彩、カンヴァス	36.5×44	
1-10-9	岸田劉生	芝居絵(大安寺堤)	1923年	油彩、板	24×33	京都国立近代美術館
1-10-10	岸田劉生	少年肖像 (村上巖氏十七歳)	1925年	油彩、カンヴァス	40.6×31.5	宇都宮美術館
1-10-11	岸田劉生	近藤医学博士之像	1925年	油彩、カンヴァス	45.8×37.7	神奈川県立近代美術館
1-10-12	岸田劉生	寒山拾得	1925年	紙本墨画	151.5×141.5	京都国立近代美術館
1-10-13	岸田劉生	厨房小寒	1926年	紙本着色	45.9×22	京都国立近代美術館
1-11-1	今関啓司	水辺初夏(一松村)	1922年	油彩、カンヴァス	37.9×45.5	茂原市立美術館・ 郷土資料館
1-12-1	木村莊八	くもり日の新緑	1915年	油彩、カンヴァス	39.5×52.5	
1-12-2	木村莊八	坂の中腹	1918年	油彩、カンヴァス	37.5×45.5	東京ステーションギャラリー
1-12-3	木村莊八	築地船見橋にて	1923年頃	水彩、紙	14.7×16.4	東京ステーションギャラリー
1-12-4	木村莊八	お七櫓に登る	1924年	油彩、板	25.9×17.6	宮城県美術館
1-13-1	中川一政	静物	1924年	油彩、カンヴァス	23.5×32.4	豊橋市美術博物館
1-14-1	小穴隆一	黄色い着物	1920年代 初頭	油彩、カンヴァス	91×65.4	個人蔵(小杉放菴記念日光 美術館寄託)
1-15-1	河野通勢	琴棋書画之図	1923年	油彩、板	51.4×39.5	碧南市藤井達吉現代美術館
1-15-2	河野通勢	芝居図	1923年	油彩、カンヴァス	26×39.5	府中市美術館
1-15-3	河野通勢	此度震災所見図(本所瓦町)	1923年	エッチング、紙	8.9×12	長野県立美術館
1-15-4	河野通勢	被服廠	1923年	エッチング、紙	9×12	長野県立美術館
1-15-5	河野通勢	秋色競艶	1923年	エッチング、紙	23.8×25.8	長野県立美術館
1-16-1	林倭衛	室内	1923年	油彩、カンヴァス	91.1×72.7	愛知県美術館
1-17-1	山崎省三	川べり	1925年	油彩、カンヴァス	32×40.9	横須賀美術館
1-18-1	椿貞雄	冬瓜図	1925年	油彩、カンヴァス	50.6×60.6	豊橋市美術博物館
1-18-2	椿貞雄	新緑	1925年	油彩、カンヴァス	49×41.3	千葉市美術館
1-19-1	横堀角次郎	静物	1922年頃	油彩、板	30.5×23.8	群馬県立近代美術館
1-19-2	横堀角次郎	川べり	1923年頃	油彩、カンヴァス	31.7×40.9	群馬県立近代美術館
1-20-1	南城一夫	鯛の静物	1927年	油彩、カンヴァス	72.8×91	群馬県立近代美術館
1-21-1	倉田三郎	風景	1924年	油彩、カンヴァス	45.5×53	府中市美術館
1-22-1	三岸好太郎	少女	1924年	油彩、カンヴァス	33.3×24.2	
1-23-1	三岸節子	自画像	1925年	油彩、カンヴァス	30.5×22	一宮市三岸節子記念美術館

第2章 展開：それぞれの日本、それぞれの道

2-1-1	小杉放菴	母子採果	1926年頃	油彩、カンヴァス	116×90.3	小杉放菴記念日光美術館
2-1-2	小杉放菴	羅摩物語	1928年	油彩、カンヴァス	169×126.5	東京国立近代美術館
2-2-1	森田恒友	葛飾野	1930年	紙本墨画淡彩	34.3×57.5	福島県立美術館
2-2-2	森田恒友	水郷図(春)	1932年頃	紙本墨画淡彩	41.5×93.5	埼玉県立近代美術館
2-2-4	森田恒友	尾瀬沼	1932年	油彩、カンヴァス	59×79	熊谷市立熊谷図書館

前期

2-3-1	山本鼎	浅間山秋の朝	1929年	油彩、カンヴァス	36×43.5	上田市立美術館
2-4-1	小林徳三郎	郊外風景	1926年	油彩、カンヴァス	33×45.3	東京ステーションギャラリー
2-5-2	萬鐵五郎	砂丘	1919-27年	紙本着色	61.1×66.9	岩手県立美術館
2-5-5	萬鐵五郎	荒れ模様	1923年	油彩、カンヴァス	30.5×40	練馬区立美術館
2-5-6	萬鐵五郎	宙腰の人	1924年	油彩、カンヴァス	41.2×27.2	平塚市美術館
2-5-7	萬鐵五郎	羅布かづく人	1925年	油彩、カンヴァス	117×80.5	岩手県立美術館
2-5-8	萬鐵五郎	裸婦(ほお杖の人)	1926年	油彩、カンヴァス	117×80	東京国立近代美術館
2-6-1	長谷川昇	すわる男	1915-35年	油彩、カンヴァス	45.4×33.4	個人蔵(福島県立美術館寄託)
2-6-2	長谷川昇	裸婦	1928年	油彩、カンヴァス	45.5×37.9	福島県立美術館
2-6-3	長谷川昇	レビューの女(習作)	1931年	油彩、カンヴァス	91×43.5	
2-7-1	石井鶴三	浴女	1929年	油彩、カンヴァス	60.4×45.3	東京藝術大学
2-8-1	小林和作	薔薇咲くカプリ島	1928年	油彩、カンヴァス	61×72.7	愛知県美術館
2-9-2	木村荘八	私のラバさん	1934年	油彩、カンヴァス	72.3×90.5	愛知県美術館
2-10-1	大澤鉦一郎	少女海水浴	1932年	油彩、カンヴァス	96.9×145.4	愛知県美術館
2-11-1	青山義雄	風景	1929年	油彩、カンヴァス	90.9×116.7	神奈川県立近代美術館
2-12-1	林倭衛	或る詩人の肖像(辻潤氏像)	1932年	油彩、カンヴァス	90.5×65.5	長野県立美術館
2-13-1	椿貞雄	朝子像	1927年	油彩、カンヴァス	41×32	平塚市美術館
2-14-1	小山敬三	アルカンタラの橋	1926年	油彩、カンヴァス	118×81	神奈川県立近代美術館
2-15-1	鬼頭甕二郎	風景	1925年	油彩、カンヴァス	60×73	名古屋市美術館
2-16-1	横堀角次郎	帝大構内	1929年	油彩、板	16×22.7	東京ステーションギャラリー
2-17-1	水谷清	南欧風景	510694 1930年頃	油彩、カンヴァス	72.6×90.7	岐阜県美術館
2-18-1	宮脇晴	少女立像	1932年	油彩、カンヴァス	92×65	豊田市美術館
2-18-2	宮脇晴	家族	1951年	油彩、カンヴァス	72.7×100	豊田市美術館
2-19-1	三岸好太郎	少年道化	1929年	油彩、カンヴァス	78×63	東京国立近代美術館
2-20-1	森田勝	裸婦	1929年頃	油彩、カンヴァス	55×46	神奈川県立近代美術館
2-20-2	森田勝	男と女(枚数にて)	制作年不詳	油彩、カンヴァス	15.5×22.5	

第3章 独創：不穏のなかで

3-1-1	小杉放菴	松下人	1935年	紙本着色	149.5×164	栃木県立美術館
3-2-1	今関啓司	山中早春(東金)	1942年	油彩、カンヴァス	73×100	茂原市立美術館・郷土資料館
3-3-1	木村荘八	川岸夜(明治一代女)	1936年頃	絹本着彩	24.7×37	東京ステーションギャラリー
3-3-2	木村荘八	戦争ヲ作ル	1938年	ペン、水彩、紙	22.8×32.5	東京藝術大学
3-3-3	木村荘八	一の酉	1950年	油彩、カンヴァス	26.7×35.3	東京ステーションギャラリー
3-3-4	木村荘八	新宿遠望A	1958年	油彩、板	26.3×40.9	個人蔵(小杉放菴記念日光美術館寄託)
3-3-5	木村荘八	銀座みゆき通り	1958年	油彩、カンヴァス	39.5×30.3	東京ステーションギャラリー
3-4-1	鳥海青児	信州の畠(一)	1936年	油彩、カンヴァス	80.8×117	東京都現代美術館
3-4-2	鳥海青児	水田	1936年	油彩、カンヴァス	89.8×145.9	平塚市美術館
3-4-3	鳥海青児	セリスト(B)	1937年	油彩、カンヴァス	53×41	平塚市美術館
3-4-4	鳥海青児	高カラーの男	1938年	油彩、カンヴァス	60.5×42	平塚市美術館
3-5-1	倉田三郎	梅雨期の根川沿い	1929年	油彩、カンヴァス	53.2×72.8	多摩信用金庫

3-5-2	倉田三郎	春陽会構図	1937年	油彩、カンヴァス	130.4×161.8	たましん地域文化財団	
3-6-1	原精一	胡弓	1942年	油彩、カンヴァス	65×53		
3-7-1	中谷泰	横向きの肖像	1939年	油彩、カンヴァス	90.2×60.2	三重県立美術館	
3-7-2	中谷泰	春雪	1962年	油彩、カンヴァス	97×145.5	日本共産党中央委員会	
3-8-2	石井鶴三	吉川英治著「宮本武蔵」 空の巻36 一夕の恋(6)	1938年 2月15日	墨、紙	22.3×33.3	茨城県近代美術館	
3-8-8	石井鶴三	吉川英治著「宮本武蔵」 二天の巻196 鷲(5)	1938年 8月20日	墨、紙	22.3×33.3	茨城県近代美術館	
3-8-11	石井鶴三	吉川英治著「宮本武蔵」 円明の巻413 観音(4)	1939年 5月3日	墨、紙	22.3×33.3	茨城県近代美術館	
3-8-16	石井鶴三	吉川英治著「宮本武蔵」 円明の巻1012 魚歌水心(8)	1939年 7月9日	墨、紙	22.3×33.3	茨城県近代美術館	
3-9-3	木村荘八	永井荷風著「溍東綺譚」挿絵3	1937年	墨、インク、 水彩、コンテ、 胡粉、紙	15.6×21.4	東京国立近代美術館	前期
3-9-4	木村荘八	永井荷風著「溍東綺譚」挿絵4	1937年	墨、インク、 水彩、コンテ、 胡粉、紙	11.1×15.1	東京国立近代美術館	後期
3-9-7	木村荘八	永井荷風著「溍東綺譚」挿絵7	1937年	墨、インク、 水彩、コンテ、 胡粉、紙	10.7×15.4	東京国立近代美術館	前期
3-9-8	木村荘八	永井荷風著「溍東綺譚」挿絵8	1937年	墨、インク、 水彩、コンテ、 胡粉、紙	12.2×16.5	東京国立近代美術館	後期
3-9-11	木村荘八	永井荷風著「溍東綺譚」挿絵11	1937年	墨、インク、 水彩、コンテ、 胡粉、紙	11.7×15.9	東京国立近代美術館	前期
3-9-12	木村荘八	永井荷風著「溍東綺譚」挿絵12	1937年	墨、インク、 水彩、コンテ、 胡粉、紙	18×19.9	東京国立近代美術館	後期
3-9-15	木村荘八	永井荷風著「溍東綺譚」挿絵15	1937年	墨、インク、 水彩、コンテ、 胡粉、紙	18.1×28.3	東京国立近代美術館	前期
3-9-16	木村荘八	永井荷風著「溍東綺譚」挿絵16	1937年	墨、インク、 水彩、コンテ、 胡粉、紙	18×20.2	東京国立近代美術館	後期
3-9-19	木村荘八	永井荷風著「溍東綺譚」挿絵20	1937年	墨、インク、 水彩、コンテ、 胡粉、紙	10.2×14.5	東京国立近代美術館	前期
3-9-20	木村荘八	永井荷風著「溍東綺譚」挿絵21	1937年	墨、インク、 水彩、コンテ、 胡粉、紙	11.8×16.4	東京国立近代美術館	後期
3-9-23	木村荘八	永井荷風著「溍東綺譚」挿絵24	1937年	墨、インク、 水彩、コンテ、 胡粉、紙	11.7×16.5	東京国立近代美術館	前期
3-9-24	木村荘八	永井荷風著「溍東綺譚」挿絵25	1937年	墨、インク、 水彩、コンテ、 胡粉、紙	18.1×28.5	東京国立近代美術館	後期
3-9-27	木村荘八	永井荷風著「溍東綺譚」挿絵28	1937年	墨、インク、 水彩、コンテ、 胡粉、紙	15.6×21.5	東京国立近代美術館	前期
3-9-28	木村荘八	永井荷風著「溍東綺譚」挿絵29	1937年	墨、インク、 水彩、コンテ、 胡粉、紙	16.2×22.5	東京国立近代美術館	後期
3-9-31	木村荘八	永井荷風著「溍東綺譚」挿絵32	1937年	墨、インク、 水彩、コンテ、 胡粉、紙	18×25.8	東京国立近代美術館	前期
3-9-32	木村荘八	永井荷風著「溍東綺譚」挿絵33	1937年	墨、インク、 水彩、コンテ、 胡粉、紙	11.5×16.3	東京国立近代美術館	後期
3-10-2	中川一政	尾崎士郎著「人生劇場」2	1939年～	紙本墨彩着色	38.7×48.5	真鶴町立中川一政美術館	
3-10-7	中川一政	尾崎士郎著「人生劇場」17	1939年～	紙本墨彩着色	38.7×48.5	真鶴町立中川一政美術館	
3-10-12	中川一政	尾崎士郎著「人生劇場」37	1939年～	紙本墨彩着色	38.7×48.5	真鶴町立中川一政美術館	

3-10-14	中川一政	尾崎士郎著「人生劇場」51	1939年～	紙本墨彩着色	38.7×48.5	真鶴町立中川一政美術館	
3-11-1	長谷川潔	小さな金魚鉢	1928年	ポアント・セッシュ、紙	26.3×20.2	碧南市藤井達吉現代美術館	
3-11-2	長谷川潔	アレクサンドル三世橋とフランスの飛行船	1930年	マニエール・ノワール、紙	16.9×30	碧南市藤井達吉現代美術館	
3-11-3	長谷川潔	裸婦	1936年	ビュラン、紙	26×16.8	碧南市藤井達吉現代美術館	
3-11-4	長谷川潔	小さなアネモネ	1939年	アクアタント、ヴェルニ・ムー、紙	19.5×14.7	碧南市藤井達吉現代美術館	
3-11-5	長谷川潔	窓辺卓子	1954-55年	マニエール・ノワール、紙	33.7×27.3	碧南市藤井達吉現代美術館	
3-11-6	長谷川潔	飼いならされた小鳥 (西洋将棋など)	1962年	マニエール・ノワール、紙	36×26.7	碧南市藤井達吉現代美術館	
3-12-2	古川龍生	昆虫戯画卷 平和篇 緑陰労働	1933年	木板、紙	24.8×34.7	栃木県立美術館	
3-12-6	古川龍生	昆虫戯画卷 争闘篇 昆虫合戦	1933年	木板、紙	24.8×34.7	栃木県立美術館	
3-12-9	古川龍生	昆虫戯画卷 新生篇 乱酔泥喜	1933年	木板、紙	24.8×34.7	栃木県立美術館	
3-12-10	古川龍生	昆虫戯画卷 新生篇 浄土黎明	1933年	木板、紙	24.8×34.7	栃木県立美術館	
3-13-1	前田藤四郎	屋上運動	1931年	リノカット、紙	45×71	大阪中之島美術館	前期
3-13-2	前田藤四郎	装飾窓	1931年	リノカット、紙	20×25	大阪中之島美術館	前期
3-13-3	前田藤四郎	ラグビー	1936年	リノカット、写真凸版、紙	43.5×31	大阪中之島美術館	後期
3-13-4	前田藤四郎	紅型	1939年	リノカット、紙	44×31	大阪中之島美術館	前期
3-13-5	前田藤四郎	紅型	1942年	リノカット、紙	30.5×43	大阪中之島美術館	後期

第4章 展望：巨星たちと新たな流れ

4-1-1	アントニン・レーモンド	題不詳[コンポジション]	1959年	パステル、アクリル、紙	36.7×83.9	レーモンド設計事務所	
4-1-2	撮影者不詳	資料写真[東京都美術館の春陽 展会場で展示設営するアントニン・レーモンド]	撮影年不詳	ゼラチン・シルバー・プリント	19.5×13.5	レーモンド設計事務所	
4-2-1	中川一政	女優像	1941年	油彩、カンヴァス	72.5×50.7	真鶴町立中川一政美術館	
4-2-2	中川一政	少年顔	1951年	油彩、カンヴァス	39.5×31.5	真鶴町立中川一政美術館	
4-2-3	中川一政	駒ヶ岳	1973年	油彩、カンヴァス	112.1×145.5	真鶴町立中川一政美術館	
4-2-4	中川一政	向日葵	1982年	油彩、カンヴァス	100×80.3	真鶴町立中川一政美術館	
4-3-1	岡鹿之助	魚	1939年	油彩、カンヴァス	60.5×72.8	横須賀美術館	
4-3-2	岡鹿之助	窓	1949年	油彩、カンヴァス	72×90	愛知県美術館	
4-3-3	岡鹿之助	観測所	1951年	油彩、カンヴァス	65.1×80.3	静岡県立美術館	
4-3-4	岡鹿之助	山麓	1957年	油彩、カンヴァス	65×80	京都国立近代美術館	
4-3-5	岡鹿之助	群落(A)	1962年	油彩、カンヴァス	66×91.5	東京国立近代美術館	
4-3-6	岡鹿之助	段丘	1978年	油彩、カンヴァス	80.5×65	個人蔵 (群馬県立近代美術館寄託)	
4-5-1	加山四郎	室内	1956年	油彩、カンヴァス	96.5×130.5	神奈川県立近代美術館	
4-6-1	小川マリ	静物A	1956年	油彩、カンヴァス	60.4×72.6	栃木県立美術館	
4-7-1	水谷清	絵を描く女	1953年	油彩、カンヴァス	79×137	岐阜県美術館	
4-8-1	三雲祥之助	パリスの審判	1957年	油彩、カンヴァス	112×145.5	京都国立近代美術館	
4-9-1	遠藤典太	麦田トンネル	1988年	油彩、カンヴァス	80.9×100.4	横浜市民ギャラリー	
4-10-1	本荘赳	山羊小屋	1950年代	油彩、カンヴァス	60.6×91		

4-11-1	魚津良吉	水郷	1956年	油彩、カンヴァス	73.1×91	愛知県美術館	
4-12-1	志村一男	静物(手水鉢)	1948年	油彩、カンヴァス	36.7×44.5	諏訪市美術館	
4-12-2	志村一男	すすき	1955年	油彩、カンヴァス	91×72.8	諏訪市美術館	
4-14-1	南大路一	植物(C)	1958年	油彩、カンヴァス	116.7×91.3	世田谷美術館	
4-17-1	藤井令太郎	アッカドの椅子(Ⅱ)	1957年	油彩、カンヴァス	130.7×162.5	神奈川県立近代美術館	
4-19-1	田畔司朗	旗	1961年	油彩、カンヴァス	130.3×162	神奈川県立近代美術館	
4-20-1	宮城音蔵	船	1958年	油彩、カンヴァス	65.2×100	武蔵野美術大学 美術館・図書館	
4-21-1	田中岑	丘原	1956年	油彩、カンヴァス	80.4×102	神奈川県立近代美術館	
4-22-1	五味秀夫	紡蟲(A)	1955年	油彩、カンヴァス	90.5×72	一般財団法人 川村文化振興 財団	
4-23-1	関頼武	失樂園	制作年不詳	水彩、パステル、紙	72×84	株式会社 宇津路屋	
4-24-1	清宮質文	夕やけ	1956年	木版、紙	25.7×24.1		後期
4-24-3	清宮質文	ある空間(蝶)	1962年	木版、紙	22.1×25.4	横須賀美術館	前期
4-24-5	清宮質文	九月の海辺	1970年	木版、紙	13.3×23.3	横須賀美術館	前期
4-24-6	清宮質文	壇の中の魚(暗い夕日10)	1972年	木版、紙	30.2×23.9	横須賀美術館	後期
4-25-2	北岡文雄	漁師の家	1952年	木版(多色)、紙	35 ×46	町田市国際版画美術館	前期
4-25-4	北岡文雄	雪の犀川	1977年	木版、紙	39.8 ×54.8	町田市国際版画美術館	後期
4-26-2	駒井哲郎	夢の推移	1950年	メゾチント(線 刻)、紙	12.4×15.4	世田谷美術館	
4-26-4	駒井哲郎	時間の玩具	1970年	アクアチント (カラー)、紙	39.4×23.7	世田谷美術館	
4-27-1	深沢幸雄	愛憎	1960年	エッチング、デ・イーブ・エッチ ング、ソフトグラウンド・エッチ ング、ドライポイント、サルファチ ント、紙	35.9×33	神奈川県立近代美術館	
4-27-2	深沢幸雄	生(2)	1960年	エッチング、デ・イーブ・エッチ ング、ドライポイント、サルファチ ント、紙	35.9×33	神奈川県立近代美術館	

■常設展示

コレクション展 I 「田崎草雲・小室翠雲—関東南画の源流」

展示期間＝ 令和5(2023)年4月15日(土)～6月18日(日)

足利ゆかりの南画家・田崎草雲とその弟子・小室翠雲の画業を当館コレクションから振り返った。
田崎草雲(1815～98)は足利藩の江戸藩邸に生まれ、谷文晁、金井烏洲、春木南溟に師事し、足利藩戸田家の絵師となった。師・文晁に倣い多様な画風を展開し、後世の南画界に多大な影響を与えた。また、民兵「誠心隊」を組織し、藩の警護にあたるなど勤王の志士としても活動した。
小室翠雲(1874～1945)は草雲に学び、昭和日本画壇の中心で活躍した館林出身の日本画家。文展審査員、帝国芸術院会員、また1930(昭和5)年にはドイツ政府主催の現代日本画展に日独親善特使の代表に選ばれるなど、日本を代表する画家となった。28歳で開いた「環堵画塾」では栃木県出身の石川寒巖や大山魯牛をはじめ多くの弟子を育てた。

担当者＝ 志田康宏(主任)

出品リスト

作者名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(cm)
■1階展示室				
【栃木の美術】				
バーナード・リーチ	蛸絵大皿	1928年	陶	11×φ50
バーナード・リーチ	魚文大皿	1934年	陶	8×φ37
濱田庄司	黒釉鉄砂大鉢	1935年頃	陶	13×φ45.8
濱田庄司	柿釉赤絵角皿	1972年	陶	8×33.5×33.5
藤沼昇	網代編盛藍 陽光	2018年	竹	25×44×44
石川寒巖	子牛	1931年	紙本金地着色	170×366
荒井寛方	阿弥陀	1913年	絹本着色	205.5×94(左右) 205.5×114(中)
デヴィッド・ナッシュ	ファミリー・トゥリー 1971-1981/ミズナラとの 20日間、光徳、日本、1982年2月	1982年	紙、エッチング、 コンテ	74.6×102.6
デヴィッド・ナッシュ	絵日記 10月18日 木曜日	1984年	紙、コンテ、 フェルトペン、色鉛筆	53.1×39.6
デヴィッド・ナッシュ	絵日記 10月21日 日曜日	1984年	紙、コンテ、 フェルトペン、色鉛筆	53.1×39.6
デヴィッド・ナッシュ	絵日記 10月26日 金曜日	1984年	紙、コンテ、 フェルトペン、色鉛筆	53.1×39.6
デヴィッド・ナッシュ	絵日記 10月29日 月曜日	1984年	紙、コンテ、 フェルトペン、色鉛筆	53.1×39.5
デヴィッド・ナッシュ	絵日記 10月30日 火曜日	1984年	紙、コンテ、 フェルトペン、色鉛筆	53.1×39.6
デヴィッド・ナッシュ	絵日記 11月3日 土曜日	1984年	紙、コンテ、 フェルトペン、色鉛筆	53.1×39.6
デヴィッド・ナッシュ	絵日記 11月4日 日曜日	1984年	紙、コンテ、 フェルトペン、色鉛筆	53.1×39.6
榎俊幸	三猿	2021年	麻布/アクリル絵 具、墨、岩絵具	80.3×65.2

【田崎草雲・小室翠雲—関東南画の源流】

田崎草雲	山水人物図(雲洞読易・山中談玄)	1860年頃	紙本墨画淡彩	158.5×338	(寄託)
田崎草雲	一棹揺山	1884年	絹本着色	132×56.5	

田崎草雲	夏山過雨	1887年	絹本着色	169.6×55.1	
田崎草雲	陶家遺愛	明治前半期年	紙本着色	112.3×44.7	
田崎草雲	山水画帖(乾・坤)	1930年	紙本着色	25.1×31	(寄託)
小室翠雲	墮金釵図	1922年	紙本着色	174×82	
小室翠雲	幽溪聴泉	1921年	絹本着色	158.5×71	
小室翠雲	月下帰漁	昭和10年代頃	絹本着色	143×42.4	
小室翠雲	瑞西所見	1931年	紙本着色	67.5×112.7	
小室翠雲	柳桜山水	昭和10年代頃	紙本着色	46×58.6	
小室翠雲	魚蝦満厨図	1942-1945年	紙本着色	49×56.9	
小室翠雲	賦色紫桐丹鳳図	1939-45年	紙本着色	159.5×72.2	
小室翠雲	涌谷桜雲図	1933年	紙本着色	56.5×82.3	(寄託)
小杉放菴	童話・瘤取	1963年	紙本着色	45.5×47.3	
小杉放菴	童話・花咲翁	1963年	紙本着色	44×47.3	
小杉放菴	童話・天狗舞	1963年	紙本着色	44×47.3	
小杉放菴	童話・竹取翁	1963年	紙本着色	47×47.3	
小杉放菴	童話・金太郎	1963年	紙本着色	45×47.3	
橋本雅邦	山居図	1900年代	紙本着色	110.8×40.8	

■1階 大壁面周辺の立体作品

デヴィッド・ナッシュ	テーブルと椅子	1984年	木(カバ)	240×340×340
デヴィッド・ナッシュ	歩く梯子	1984年	木(ニレ)	218×190×64
高木修	Untitled	1993年(2016年再制作)	鉄	136×570×111
青木秀憲	宙シリーズ 飛翔2001	2001年	アルミニウム	180×110×50
篠田守男	クロンボルグ城 T-C4305	1974年	アルミニウム、ワイヤー、真鍮	104×250×150
和久奈南都留	ふるさと	1980年	御影石	100×100×100

■2階展示室

【川上澄生の創作版画】

川上澄生	「新東京百景」 丸ノ内曇日	1929年	紙、木版多色刷	18.2×25
川上澄生	「新東京百景」 青山墓地	1929年	紙、木版多色刷	18×24.2
川上澄生	「新東京百景」 魚河岸	1931年	色紙、木版多色刷	18×24
川上澄生	「新東京百景」 観兵式	1929年	紙、木版多色刷	18.2×24.2
川上澄生	「新東京百景」 浅草公園 カジノ・フォーリー	1930年	紙、木版多色刷	18×24
川上澄生	「新東京百景」 浜離宮	1931年	紙、木版多色刷	17.8×24
川上澄生	「新東京百景」 丸ノ内一景	1930年	紙、木版多色刷	18×23.8
川上澄生	「新東京百景」 百貨店内部	1930年	紙、木版多色刷	17.8×24
川上澄生	抱擁	1925年頃	紙、木版単色刷、 手彩色	12.5×22

【西洋絵画】

ポール・ユエ	谷	19世紀前半	カンヴァス、油彩	30.5×49.5
カミーユ・コロー	ヴィル＝ダヴレーの池 (洗濯女たちと水飼場に来る馬)	1847年	カンヴァス、油彩	85×100
アレクサンドル・カバネル	狩の女神ディアナ	1882年	カンヴァス、油彩	106.5×75.5
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1805-17年頃	カンヴァス、油彩	52.8×44.8

【油画から現代美術へ】

長谷川春子	春夜興	1936年	カンヴァス、油彩	80.5×65
長谷川春子	不詳(異国人物)	1939-40年頃	絹、水彩	71.4×56
長谷川春子	妖しいゆめ	1950年	カンヴァス、油彩	73×49.5
清水登之	歯科医	1928年	カンヴァス、油彩	115.9×90.9
清水登之	江南戦跡	1938年	カンヴァス、油彩	91×116.7
川島理一郎	蘭花図	1940-50年代	カンヴァス、油彩	53.5×46
川島理一郎	京の舞妓	1950年代	板、油彩	33×24
川島理一郎	朝の富士	1950年代	カンヴァス、油彩	37.5×45.5
川島理一郎	コルシカ島	1920年	紙、水彩	33.2×20.3
川島理一郎	K夫人	1950-60年代	紙、鉛筆	23×10
川島理一郎	抽象画 アムール	1960年代	紙、鉛筆、パステル	33.5×20
刑部人	室生新緑	1968年	カンヴァス、油彩	97×130.2
刑部人	写生	1961年	カンヴァス、油彩	112.7×145
小山田二郎	赤い生き物	1967年	カンヴァス、油彩	61×73
小山田二郎	面をかぶった子供	1962年頃	カンヴァス、油彩	73×61
小山田二郎	画家の像	1965年	カンヴァス、油彩	73×61
長重之	ガス発生炉	1956年	カンヴァス、油彩	73.5×91
長重之	ポケットノナツno. 1	1967年	カンヴァス、油彩	162×130
長重之	ピックポケット68	1968年	綿布、木、ロープ	18×132×167

【新南画と現代日本画】

大山魯牛	寄情雲烟	1972年	紙本着色	162×93
大山魯牛	懸想山林	1972年	紙本着色	162.5×95.5
大山魯牛	山裾	1972年	紙本着色	93×118
大山魯牛	荒野	1973年	紙本着色	93×161
大山魯牛	踏春草独歩	1968年	紙本着色	45.5×68
大山魯牛	池塘春色	1968年	紙本着色	68×49
大山魯牛	机辺	1956年	紙本着色	166.5×84.5(×2)
石川寒巖	やしろの杜	1920年代頃	紙本着色	111.5×157
石川寒巖	松林図	1924年	絹本着色	101.5×146.5
石川寒巖	馬上人	1920年代頃	紙本着色	108×152
石川寒巖	行人	1920年代頃	紙本着色	105×152
石川寒巖	秋晴	1925年	紙本着色	102.5×147.5

石川寒巖	山中湖沼	1924年	絹本着色	102.5×147
棚町宜弘	過日	2017年	紙本(西嶋和紙)／ 墨、銀、錫箔、岩絵 具、天然染料	181.1×540

■2階展示室の立体作品

神山明	伝説	1989年	杉、オイルステイン	147×99×99
伊藤公象	収縮性小曲面体	1980年 (再制作93年)	陶、アクリル	61.5×107.3×130
篠原有司男	モーターサイクル・ママ	1973年	カードボード、 ポリエステル樹脂	158×235×128

《伊東直子マイセン磁器コレクション》

マイセン磁器	色絵神話女性像「雄牛にのるエウロペ」	19世紀後半	磁	高21.3×幅20
マイセン磁器	色絵楽奏猿群像「猿のオーケストラ」	1766-18世紀末	磁	高16.5(22種23ヶ)
マイセン磁器	赤絵楽奏人物群像	1924-34年	磁	高29.6(4ヶ)
マイセン磁器	色絵ブット像「夏と秋の寓意」	1770年頃	磁	高23.6×幅21.5
マイセン磁器	藍地金彩色絵花卉宮廷人物図植木鉢	19世紀末	磁	高28.2×21.3(2ヶ)
マイセン磁器	色絵燭台ポプリ壺付暖炉用センターピース	1782-90年頃	磁	57.2×32.8(2ヶ)
マイセン磁器	色絵ブット立像「漁師」	18世紀後半	磁	高14.3×幅23.3
マイセン磁器	黒地ベットガー炆器赤絵金彩人物図瓶	1710-15年頃	磁	12.5×10.3
マイセン磁器	色絵人物像「羊飼いと羊にのるブット」	18世紀後半	磁	高10.4×幅12.8
マイセン磁器	色絵金彩人物図蓋付双耳鉢、受皿	1725-30年頃	磁	鉢高9.1受皿径13.8
マイセン磁器	色絵神話人物像「ウェヌス、アドニスとクピッド」	1750-60年代	磁	高15×幅14.4
マイセン磁器	色絵金彩人物図ティーポット	1735年頃	510694	高9.7×幅16
マイセン磁器	色絵花卉図ポプリ壺・アモル立像「着衣のアモル」・花飾り	1750-60年代	磁	高21×幅23.5
マイセン磁器	色絵人物図カップ&ソーサー	1730-40年代	磁	カップ高4.6×径7.7、 ソーサー径13.4
マイセン磁器	色絵神話人物像「大地の寓意 フローラ」	1760年頃	磁	高16×幅15
マイセン磁器	金彩樹下人物図カップ&ソーサー「金の中国人」	1730年頃	磁	カップ高4.5×径7.7、 ソーサー径12.4
マイセン磁器	色絵ポプリ壺付群像「慈愛の寓意」	18世紀中頃	磁	高26×幅19
マイセン磁器	色絵花卉図輪花鉢	1730年代	磁	高4.5×径13
マイセン磁器	色絵梅鶉図輪花鉢	1774-1814年頃	磁	高5.2×径13.3
マイセン磁器	色絵東洋人坐像「ゆれるバゴダ像」	19世紀末	磁	17.9×18.5
マイセン磁器	色絵獅子昆虫花鳥図スルコウスキー・オツイエルレーフ皿	1735-45年頃	磁	5.8×φ34.6
マイセン磁器	色絵花飾鳥ブット像鏡	19世紀中頃か後	磁	130×80
マイセン磁器	色絵花飾田園人物図蓋付双耳ポプリ壺	19世紀後半	磁	高63.5×幅37
マイセン磁器	色絵貼花狩猟図鹿浮彫蓋付パンチボウル	19世紀後半	磁	37×30.7
マイセン磁器	色絵オシドリ像	1922年か23年	磁	高37×幅18.4
マイセン磁器	色絵神話人物像「愛の束縛」	19世紀後半	磁	高31.7×幅34.1

□常設館以外の展示作品

■玄関ロビー

多田美波	周波数FL10-6874	1968年	ステンレス、ミラーガラス	247×273
------	--------------	-------	--------------	---------

■集会室前

島田忠恵	O & U	1972年	ブロンズ、ステンレス	200×200×100
------	-------	-------	------------	-------------

■屋外展示(中庭)

エミール=アントワーン・ブールデル

	ペネロペ	1907-12年	ブロンズ	240×90×70
島田忠恵	餓鬼	1971年	ブロンズ	350×280×100
高橋清	親和	1974年	御影石	250×258×175
飯野喜美子	グリーン・ベルト(1)	1976年	ステンレス	90×310×270
清水九兵衛	Affinityの継続-A	1976年	アルミニウム	55×286×180
小林泰彦	インヴォケーション(祈り)	1981年	ステンレス	224×68×57
杉浦康益	陶による石の群	1983年	陶器	50×40×40(×12)
青木秀憲	[いずみ]”IZUMI”	1981年	ステンレス	4.5×212×212
三木俊治	行列	1984年	ブロンズ、御影石	25×800×10

■野外彫刻

高橋清	Atlinemi(水の神)	1966年	ブロンズ	90×67×58
飯田善国	星と人間の間	1972年	ステンレス	1000×450×450
館野弘青	微笑	1974年	ブロンズ	180×60×46
堀内正和	ジグザグ立方体	1974年	ステンレス	106×216.5×106
関根伸夫	空相一円錐	1974年	黒御影石	120×120×120
保田春彦	ある街の片隅、忘れられた祠	1974年	花崗石、ステンレス	100×50×100
速水史朗	太陽の門	1978年	マンナリー石	300×128×90
デューコン, リチャード	カタツムリのように(A)	1987年	アルミニウム、鋼鉄	520×680×560
手塚登久夫	梟の森 2002	2002年	黒御影石、赤御影石	207×130×90

コレクション展Ⅱ「美術館にいてみよう！」

展示期間＝ 前期:令和5(2023)年7月8日(土)～8月27日(日)
後期:令和5(2023)年8月29日(火)～10月5日(木)
※ 9月4日(月)～22日(金)は休館

夏休みの小中学生やその保護者など、美術館にはじめて来館されるような方でも楽しめるよう、「5W1H」のキーワードに沿って所蔵品をわかりやすく紹介した。作品解説はUDフォントを用い、すべての漢字にふり仮名をつけることで、誰でも読みやすくなるようなパネルとなるように努めた。また会期中には、初めての試みとして「ママパパ鑑賞応援デー」と題し、未就学児親子向けのイベントを開催した。素材見本やミニゲームなどを用意することで、未就学児でも美術館に飽きることなく、親子一緒に楽しめるイベントとなった。

担当者＝ 武関彩瑛(研究員)

出品リスト

作者名	作品名	制作年	材質技法	寸法(cm)
【What-何を描いているの?】				
五百城文哉	百花百草図	1903年頃	絹、水彩	147.3×86.4
石川寒巖	菜果図		紙本着色	38×43
松林桂月	蘆蟹	1912年	紙本着色	139×34.3
小川芋銭	河童図	1935年	紙本墨画	23.2×32.3 (寄託)
小杉放菴	牛久図巻	1950年	紙本着色、巻物	27.3×68.2(第1図), 27.3×56.2(第2図), 27.3×51.2(第3図), 24.7×36.4(第4図)
下村観山	漁樵問答	1909年頃	紙本着色	漁 135.8×54.3 樵 136.2×54.3
石川寒巖	漁樵問答	1930年頃	紙本着色	64.5×79.7
小堀鞆音	宇智野の雪	1898年	絹本着色	179×97.5 (寄託)
小堀鞆音	稚児琴棋書画図		絹本着色	146.8×71.8
木村了子	水禽図屏風一人魚狩り	2013年	紙本(鳥の子紙)／ 墨、金泥、水干絵具、 マイカ金雲母、 膠(三千本膠・兔膠)	133×264
菊川京三	伝顔輝作 寒山拾得図		紙、水彩	35.4×16
石川寒巖	寒山拾得	1933年	紙本着色	90×85
柄澤齊	肖像XL寒山拾得	1997年	紙、木口木版	35.2×15
菊川京三	喜多川歌麿 納涼美人図	1928年	紙、多色刷木版	22×36
深沢史朗	Utamaro and I	1972年	紙、シルクスクリーン	74×74
菊川京三	写楽作 嵐龍蔵図		紙、多色刷木版	
深沢史朗	Sharaku and I - 749	1974年	紙、シルクスクリーン	56×56
伊東正次	滝図	2021年	麻紙／岩絵具、墨、ペン	116.7×80.3

【How-どうやって作っているの?】

濱田庄司	白釉黒流描大鉢	1972年	陶	14.5×φ53.6
島岡達三	塩釉象嵌縄文壺	1981年	陶	35×φ27.5

加守田章二	壺	1979年	陶	47×φ19.5	
瀬戸浩	灰釉焼メ銀ストライプ壺	1987年	陶	43×φ46	
廣崎裕哉	牙白瓷双耳鳥飾花器	1999年	磁	21×φ29.3	
島田文雄	彩磁朴花文大壺	2004年	磁	35×φ39	
三井安蘇夫	緑影	1975年	銅、鍛金	50×50×25	
岩田藤七	花器	1975年頃	ガラス、宙吹き	34×14×13.5	
岩田久利	花器 墨衣	1988年	ガラス、宙吹き	33×20×18.5	
日下田博	草木染屏風	1982年	染色	98×185	前期
日下田正	茶綿地浮藍染飾布	2007年	染織	132×50.5	後期
飯塚琅玕齋	穰屋	1936年頃	竹	42.5×32×29.4	
勝城蒼鳳	柁割拭漆花籃 泉韻	2005年	竹	41×54×45	(寄託)
勝城蒼鳳	柁割曲線摺漆花籃 瀧	2009年	竹	45×37×27	(寄託)前期
勝城蒼鳳	簗竹摺漆盛籃 螢の里	2006年	竹	13×72×28	(寄託)後期
藤沼昇	束編花籃 阿伝	2011年	竹	26×φ44	
羽石光志	工房	1961年	紙本着色	146×176	
羽石光志	壺をつくる人	1961年	紙本着色	157×115	

■1階 大壁面周辺の立体作品

デ'イヴ'イット'・ナッシュ	テーブルと椅子	1984年	木(カバ)	240×340×340	
デ'イヴ'イット'・ナッシュ	歩く梯子	1984年	木(ニレ)	218×190×64	
高木修	Untitled	1993年(2016年再制作)	鉄	136×570×111	
青木秀憲	宙シリーズー飛翔2001	2001年	アルミニウム	180×110×50	
篠田守男	クロンボルグ城 T-C4305	1974年	アルミニウム、ワイヤー、真鍮	104×250×150	
和久奈南都留	ふるさと	1980年	御影石	100×100×100	

■2階展示室

【栃木県誕生150年 高橋由一の石版画でみる栃木県】

高橋由一	東北新道石版画 栃木県庁の図	1884年	絹、石版画、手彩色	21.9×27.6	
高橋由一	東北新道石版画 栃木県那須郡三島村栃木県下諸新道開道 式場及び場上より肇耕社事務所を望む図	1884年	絹、石版画、手彩色	21.9×27.6	
高橋由一	東北新道石版画 栃木県塩谷郡塩原村新道の内全村に入る坂 上より關谷村を望む図	1884年	絹、石版画、手彩色	21.9×27.6	
高橋由一	東北新道石版画 栃木県塩谷郡横川村男鹿川に架する橋梁の 図	1884年	絹、石版画、手彩色	21.9×27.6	
高橋由一	東北新道石版画 福島県西白河郡小田倉村と栃木県下那須郡 豊原堺の間黒川に架する橋梁の図	1884年	絹、石版画、手彩色	21.9×27.6	
高橋由一	東北新道石版画 栃木県那須郡豊原村新道より北望の図	1884年	絹、石版画、手彩色	21.9×27.6	

高橋由一	東北新道石版画 栃木県河内郡茂原村新道の内字茂原の図	1884年	絹、石版画、手彩色	21.9×27.6
高橋由一	東北新道石版画 栃木県下都賀郡小金井駅新道より筑波山を望む図	1884年	絹、石版画、手彩色	21.9×27.6

【When-そのタイトル、いつのもの？】

アーンズビー・ブラウン	九月の朝	1910年代	カンヴァス、油彩	39×44
アレクサンドル・カバネル	狩の女神ディアナ	1882年	カンヴァス、油彩	106.5×75.5
J.M.W. ターナー	風景、タンバリンをもつ女	1840-50年頃	カンヴァス、油彩	88.5×118
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1805-17年頃	カンヴァス、油彩	52.8×44.8

【Where-描かれた栃木】

小杉放菴	日光東照宮	1900年頃	紙、水彩	51×34
五百城文哉	日光 本地堂(薬師堂)	1900年前後	紙、水彩	49×66
吉田博	東照宮、日光	1899年頃	紙、水彩	100×67.5
内田進久	大谷の採石図	1936年頃	紙、エッチング	28.3×22
内田進久	石切場	1936年	紙、エッチング	27.4×21.4
内田進久	益子の轆轤場	1949年	紙、エッチング	29.7×36.4
内田進久	窯焼き	1949年	紙、エッチング	33×44.6
刑部人	中禅寺湖秋色	1955年頃	カンヴァス、油彩	41×61.5
海老原友忠	岩舟山	1975年	紙、鉛筆、水彩	44.9×145.6
海老原友忠	裏岩舟	1982年	紙、鉛筆、水彩	44.1×150

【Where-どこにもない場所】

川上澄生	偽版えぞ古地図	1955年	紙、木版多色刷	12×21.5
川上澄生	偽版GIPANG古地図	1956年	紙、木版単色刷	20.6×27.5
デ'イヴイット・ホックニー	島	1971年	カンヴァス、アクリル	152.4×182.9
渡辺豊重	オレンジ色の楽園を見た	2000年	カンヴァス、 油彩・アクリル・金箔	194×259
木村利三郎	City 85	1969年	紙、シルクスクリーン	56×40
木村利三郎	City 131	1970年	紙、シルクスクリーン	49×64.7
木村利三郎	City 103	1970年	紙、シルクスクリーン	59×42.7

【Who-あなたは誰？】

小山田二郎	鳥女	1956年	カンヴァス、油彩	117×80
石原友明	Untitled	1985(1996リプリント)年	ゼラチンシルバープリント	50.5×60.5
石原友明	Untitled	1985(1996リプリント)年	ゼラチンシルバープリント	50.5×60.5
石原友明	Untitled	1985(1996リプリント)年	ゼラチンシルバープリント	50.5×60.5
森村泰昌	肖像(黒)	1986年	タイプCプリント	120×100
森村泰昌	肖像(赤Ⅰ)	1986年	タイプCプリント	120×100.1
柄澤齊	肖像XXXIV アルブレヒト・アルトドルファー	1985年	紙、木口木版	21.5×7.1
柄澤齊	肖像XXX ミケランジェロ・ブオナローティ	1985年	紙、木口木版	21.7×15.6

柄澤齊	肖像XXIII ルイス・キャロルとアリス・リッデル	1984年	紙、木口木版	9.7×6.4
柄澤齊	肖像XXVII オディロン・ルドン	1985年	紙、木口木版	21.3×15.5
柄澤齊	肖像XI ジェームズ・アンソール	1983年	紙、木口木版	16.6×13.5
ホックニー、デヴィッド	英国大使館での昼食	1983年	写真	117×210.8

【Why-飛び出す絵画？】

青木世一	ルソー・キット「フットボールをする人々」	2003年	シナベニヤ、アクリル	180×300×200
青木世一	参考展示:「パリ夜街」キット			
清水登之	パリ夜街	1926年	カンヴァス、油彩	88.9×116.2
関谷富貴	関谷富貴作品群(1)	1950-60年代	カンヴァスまたはボード、油彩 (一部混合技法)	27.3×22.2

■2階展示室の立体作品

神山明	伝説	1989年	杉、オイルステイン	147×99×99
伊藤公象	収縮性小曲面体	1980年(再制作93年)	陶、アクリル	61.5×107.3×130
篠原有司男	モーターサイクル・ママ	1973年	カートボード [※] 、ポリエステル樹脂	158×235×128

《伊東直子マイセン磁器コレクション》

マイセン磁器	色絵楽奏家族像「コンサート」	20世紀初	磁	高22.2×幅21.8
マイセン磁器	色絵楽奏猿群像「猿のオーケストラ」	1766-18世紀末	磁	高16.5(22種23ヶ)
マイセン磁器	赤絵楽奏人物群像	1924-34年	磁	高29.6(4ヶ)
マイセン磁器	色絵ブット像「夏と秋の寓意」	1770年頃	磁	高23.6×幅21.5
マイセン磁器	藍地金彩色絵花卉宮廷人物図植木鉢	19世紀末	磁	高28.2×21.3(2ヶ)
マイセン磁器	色絵燭台ボブリ壺付暖炉用センターピース	1782-90年頃	磁	57.2×32.8(2ヶ)
マイセン磁器	色絵ブット立像「漁師」	18世紀後半	磁	高14.3×幅23.3
マイセン磁器	黒地ベットガー柶器赤絵金彩人物図瓶	1710-15年頃	磁	12.5×10.3
マイセン磁器	色絵人物像「羊飼いと羊にのるブット」	18世紀後半	磁	高10.4×幅12.8
マイセン磁器	色絵金彩人物図蓋付双耳鉢、受皿	1725-30年頃		510694 鉢高9.1受皿径13.8
マイセン磁器	色絵神話人物像「ウェヌス、アドニスとクビド」	1750-60年代	磁	高15×幅14.4
マイセン磁器	色絵金彩人物図ティーポット	1735年頃	磁	高9.7×幅16
マイセン磁器	色絵花卉図ボブリ壺・アモル立像「着衣のアモル」・花飾り	1750-60年代	磁	高21×幅23.5
マイセン磁器	色絵人物図カップ&ソーサー	1730-40年代	磁	カップ [※] 高4.6×径7.7、 ソーサー径13.4
マイセン磁器	色絵神話人物像「大地の寓意 フローラ」	1760年頃	磁	高16×幅15
マイセン磁器	金彩樹下人物図カップ&ソーサー「金の中国人」	1730年頃	磁	カップ [※] 高4.5×径7.7、 ソーサー径12.4
マイセン磁器	色絵ボブリ壺付群像「慈愛の寓意」	18世紀中頃	磁	高26×幅19
マイセン磁器	色絵花卉図輪花鉢	1730年代	磁	高4.5×径13
マイセン磁器	色絵梅鶉図輪花鉢	1774-1814年頃	磁	高5.2×径13.3
マイセン磁器	色絵東洋人坐像「ゆれるバゴダ像」	19世紀末	磁	17.9×18.5
マイセン磁器	色絵獅子昆虫花鳥図スルコウスキー・オツイエルリーフ皿	1735-45年頃	磁	5.8×φ34.6
マイセン磁器	色絵花飾鳥ブット像鏡	19世紀中頃か後半	磁	130×80

マイセン磁器	色絵花飾田園人物図蓋付双耳ボブリ壺	19世紀後半	磁	高63.5×幅37
マイセン磁器	色絵貼花狩猟図鹿浮彫蓋付パンチボウル	19世紀後半	磁	37×30.7
マイセン磁器	色絵オンドリ像	1922年か・23年	磁	高37×幅18.4
マイセン磁器	色絵神話人物像「愛の束縛」	19世紀後半	磁	高31.7×幅34.1

□常設館以外の展示作品

■玄関ロビー

多田美波	周波数FL10-6874	1968年	ステンレス、ミラーガラス	247×273
------	--------------	-------	--------------	---------

■集会室前

島田忠恵	O & U	1972年	ブロンズ、ステンレス	200×200×100
------	-------	-------	------------	-------------

■屋外展示(中庭)

エミール=アントワーン・ブール デル	ペネロペ	1907-12年	ブロンズ	240×90×70
島田忠恵	餓鬼	1971年	ブロンズ	350×280×100
高橋清	親和	1974年	御影石	250×258×175
飯野喜美子	グリーン・ベルト(1)	1976年	ステンレス	90×310×270
清水九兵衛	Affinityの継続-A	1976年	アルミニウム	55×286×180
小林泰彦	インヴォケーション(祈り)	1981年	ステンレス	224×68×57
杉浦康益	陶による石の群	1983年	陶器	50×40×40(×12)
青木秀憲	「いずみ」"IZUMI"	1981年	ステンレス	4.5×212×212
三木俊治	行列	1984年	ブロンズ、御影石	25×800×10

■野外彫刻

高橋清	Atlinemi(水の神)	1966年	ブロンズ	90×67×58
飯田善国	星と人間の間	1972年	ステンレス	1000×450×450
館野弘青	微笑	1974年	ブロンズ	180×60×46
堀内正和	ジグザグ立方体	1974年	ステンレス	106×216.5×106
関根伸夫	空相一円錐	1974年	黒御影石	120×120×120
保田春彦	ある街の片隅、忘れられた祠	1974年	花崗石、ステンレス	100×50×100
速水史朗	太陽の門	1978年	マンナリー石	300×128×90
ディーン・リチャード	カタツムリのように(A)	1987年	アルミニウム、鋼鉄	520×680×560
手塚登久夫	梟の森 2002	2002年	黒御影石、赤御影石	207×130×90

コレクション展Ⅲ 「木版画の表現」

展示期間＝ 令和5(2023)年10月21日(土)～12月24日(日)

版画の中でも、学校で習うなど身近な存在である木版画の表現に着目した。同時開催の企画展「文晁と北斎」では北斎の浮世絵版画が出品されることから、職人の分業体制で制作された浮世絵版画と、版画家による自画・自刻・自摺の創作版画を比較して見せることができた。本県ゆかりの版画家を中心に構成し、色彩豊かな川上澄生と古川龍生、独自に拓版を編み出した笹島喜平、木口木版による繊細な線の宇宙を広げた柄澤齊、ベニヤ板の普及により大型で迫力ある作品を制作した鈴木賢二のほか、イギリスの挿絵本も紹介した。11月に開催したワークショップ「大人の図工室 濃密な線の宇宙 木口木版画の世界」(講師:島一嘉氏)では、木口木版の制作に取り組んだ参加者に展示を見てもらい、柄澤やイギリスの木口木版の表現の豊かさを知ってもらった。会期中にはとちぎテレビ制作の「とちブラ」で川上澄生の特集があり、声優の古川登志夫氏に取材してもらい、好評を博した。

担当者＝ 大城茉莉恵(研究員)

作者名	作品名	制作年	材質技法	寸法(cm)
■1階 大壁面周辺の立体作品				
デイヴィッド・ナッシュ	テーブルと椅子	1984年	木(カバ)	240×340×340
デイヴィッド・ナッシュ	歩く梯子	1984年	木(ニレ)	218×190×64
高木修	Untitled	1993年(2016年再制作)	鉄	136×570×111
青木秀憲	宙シリーズ 飛翔2001	2001年	アルミニウム	180×110×50
篠田守男	クロンボルグ城 T-C4305	1974年	アルミニウム、ワイヤー、真鍮	104×250×150
和久奈南都留	ふるさと	1980年	御影石	100×100×100

■2階展示室

【古川龍生一彫る楽しみ】

古川龍生	野の家族	1928年	紙、木版	20×15
古川龍生	野の家族	1928年	紙、木版	19.5×15
古川龍生	かすみ草	1957年頃	紙、木版	35.8×23.5
古川龍生	聖ドロテアC	1959年	紙、木版	25×22
古川龍生	街(大学の構内)	1959年	紙、木版	18.5×28.7
古川龍生	街C	1960年頃	紙、木版	26.5×40.5
古川龍生	街A	1961年	紙、木版	20.5×28.7
古川龍生	棚田植	1963年	紙、木版	22×20

【西洋絵画】

アーンズビー・ブラウン	九月の朝	1910年代	カンヴァス、油彩	39×44
アレクサンドル・カバネル	狩の女神ディアナ	1882年	カンヴァス、油彩	106.5×75.5
リチャード・ウィルソン	アクア・アチェトーサ	1754年頃	カンヴァス、油彩	99.1×137.2
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1805-17年頃	カンヴァス、油彩	52.8×44.8

【棟方志功—憧れと前進】

棟方志功	「星座の花嫁」1 貴婦人と蝶々	1929年	紙、木版	11.2×14.2
棟方志功	「星座の花嫁」2 貴女等聖堂を出づる	1928年	紙、木版	17.5×11.5
棟方志功	「星座の花嫁」3 貴女等 箒星を観る	1930年	紙、木版	16×17
棟方志功	「星座の花嫁」4 ベチレヘムに聖星を観る	1930年	紙、木版	17×24.2
棟方志功	「星座の花嫁」5 星座の絵	1928年	紙、木版	18.7×19.1
棟方志功	「星座の花嫁」6 貴女 裳を引く	1930年	紙、木版	21.8×26.3
棟方志功	「星座の花嫁」7 聖堂に並ぶ三人貴女	1928年	紙、木版	11.4×21.4
棟方志功	「星座の花嫁」8 花か蝶々か	1929年	紙、木版	23×21.8
棟方志功	「星座の花嫁」9 貴女行路	1930年	紙、木版	13×17.2

【川上澄生—美しき多色刷りの世界】

川上澄生	うなじ	1923年	紙、木版単色刷	18×12
川上澄生	異国春光 横浜山手之図(川上澄生創作版画輯Ⅰ)	1924年	紙、木版多色刷	22.6×31.8
川上澄生	春の伏兵(川上澄生創作版画輯Ⅰ)	1924年	紙、木版単色刷	23.7×33
川上澄生	第1洋食店 MENU(摺行程見本)			31.5×24.2

【笹島喜平—木版画から拓版画へ】

笹島喜平	山道	1941年	紙、木版(拓刷)	49.5×68.8
笹島喜平	八代目松本幸四郎の弁慶	1949年	紙、木版	25×22
笹島喜平	松本幸四郎の鳴神上人	1948-51年	紙、木版	27.9×21.6
笹島喜平	風ある林	1959年	紙、木版(拓刷)	69.5×49.5
笹島喜平	古塔 B	1960年	紙、木版(拓刷)	47.8×47
笹島喜平	不動明王 NO.3	1962年	紙、木版(拓刷)	60.8×39.8
笹島喜平	阿修羅	1965年	紙、木版(拓刷)	60.8×45.5
笹島喜平	古塔落日	1971年	紙、木版(拓刷)	45.5×45.1

【日和崎尊夫、小林敬生、柄澤齊—日本における木口木版の展開】

日和崎尊夫	KALPA-74	1974年	紙、木口木版	25.5×20.1
日和崎尊夫	KAOS No.1	1974年	紙、木口木版	33.7×26
小林敬生	漂泊 No.4	1981年	紙、木口木版	36×33
柄澤齊	『死と変容』第1集 夜I-3 日蝕	1986-88年	紙、木口木版	10.5×16.2
柄澤齊	『死と変容』第1集 夜I-4 夢または流刑	1986-88年	紙、木口木版	15.6×21.1
柄澤齊	『死と変容』第1集 夜I-7 水	1986-88年	紙、木口木版	24.5×21.1
柄澤齊	『死と変容』第1集 夜I-9 果実	1986-88年	紙、木口木版	21.2×24.2
柄澤齊	『死と変容』第2集 洪水 II-3 月蝕	1989-90年	紙、木口木版	16.2×10.3
柄澤齊	『死と変容』第2集 洪水 II-10 洪水 A	1989-90年	紙、木口木版	25.4×20.4
柄澤齊	『死と変容』第2集 洪水 II-13 Conversation Piece	1989-90年	紙、木口木版	25.6×20.4
柄澤齊	『死と変容』第2集 洪水 II-18 陳列室	1989-90年	紙、木口木版	24.6×21.2

【西洋の木口木版——緻密な線の世界】

トマス・ビュイック	英国鳥類誌	1809(初版、第1巻:1797、第2巻1804)年	紙、木口木版	21.5×13
トマス・ビュイック	四足獣概観	1811(初版、1790)年	紙、木口木版	21.5×13
リチャード・トイル	W.アリングガム『妖精の国にて』	1875年(第2版)	紙、木口木版	38.6×28
ケイト・グリーンウェイ	『子ども的一天』	1881年刊	紙、木口木版、多色刷	25×21
ウォルター・クレイン	『パン・パイプ』	1883年	紙、木版、多色刷	22.5×31
ウォルター・クレイン	『小豚の絵本』(ウォルター・クレインの絵本 第1巻) 「この小さい豚」、「妖精の船」、「ラッキー・ボーイ王」	1895年	紙、木版、多色刷	28×23.5
ギュスターヴ・ドレ	ダンテ『地獄篇』	1861年	紙、木口木版	43.8×31.4

【鈴木賢二——刻まれた農婦の姿】

鈴木賢二	花と女(春)	1959年	紙、木版	47×47
鈴木賢二	念仏	1962年頃	紙、木版	45.7×46.3
鈴木賢二	馬	1962年頃	紙、木版	46.5×45.5

【企画展「文晁と北斎」関連展示】

福田美蘭	富嶽三十六景 神奈川沖浪裏	1996年	紙、オフセット	29.6×41
------	---------------	-------	---------	---------

■ 2階展示室の立体作品

神山明	伝説	1989年	杉、オイルステイン	147×99×99
伊藤公象	収縮性小曲面体	1980年(再制作93年)	陶、アクリル	61.5×107.3×130
篠原有司男	モーターサイクル・ママ	1973年	カードボード、ポリエステル樹脂	158×235×128

《伊東直子マイセン磁器コレクション》

マイセン磁器	色絵男性坐像「シェイクスピア」	19世紀末	磁	高34.5×幅24
マイセン磁器	色絵楽奏猿群像「猿のオーケストラ」	1766-18世紀末	磁	高16.5(22種23ヶ)
マイセン磁器	赤絵楽奏人物群像	1924-34年	磁	高29.6(4ヶ)
マイセン磁器	色絵ブット像「夏と秋の寓意」	1770年頃	磁	高23.6×幅21.5
マイセン磁器	藍地金彩色絵花卉宮廷人物図植木鉢	19世紀末	磁	高28.2×21.3(2ヶ)
マイセン磁器	色絵燭台ポブリ壺付暖炉用センターピース	1782-90年頃	磁	57.2×32.8(2ヶ)
マイセン磁器	色絵ブット立像「漁師」	18世紀後半	磁	高14.3×幅23.3
マイセン磁器	黒地ベットガー妬器赤絵金彩人物図瓶	1710-15年頃	磁	12.5×10.3
マイセン磁器	色絵人物像「羊飼いと羊にのるブット」	18世紀後半	磁	高10.4×幅12.8
マイセン磁器	色絵金彩人物図蓋付双耳鉢、受皿	1725-30年頃	磁	鉢高9.1受皿径13.8
マイセン磁器	色絵神話人物像「ウェヌス、アドニスとクビド」	1750-60年代	磁	高15×幅14.4
マイセン磁器	色絵金彩人物図ティーポット	1735年頃	磁	高9.7×幅16
マイセン磁器	色絵花卉図ポブリ壺・アモル立像「着衣のアモル」・花飾り	1750-60年代	磁	高21×幅23.5
マイセン磁器	色絵人物図カップ&ソーサー	1730-40年代	磁	カップ高4.6×径7.7、ソーサー径13.4

マイセン磁器	色絵神話人物像「大地の寓意 フローラ」	1760年頃	磁	高16×幅15
マイセン磁器	金彩樹下人物図カップ&ソーサー「金の中国人」	1730年頃	磁	カップ高4.5×径7.7、 ソーサー径12.4
マイセン磁器	色絵ボブリ壺付群像「慈愛の寓意」	18世紀中頃	磁	高26×幅19
マイセン磁器	色絵花卉図輪花鉢	1730年代	磁	高4.5×径13
マイセン磁器	色絵梅鶉図輪花鉢	1774-1814年頃	磁	高5.2×径13.3
マイセン磁器	色絵東洋人坐像「ゆれるバゴダ像」	19世紀末	磁	17.9×18.5
マイセン磁器	色絵獅子昆虫花鳥図スルコウスキー・オツイエルリーフ皿	1735-45年頃	磁	5.8×φ34.6
マイセン磁器	色絵花飾鳥ブット像鏡	19世紀中頃か後半	磁	130×80
マイセン磁器	色絵花飾田園人物図蓋付双耳ボブリ壺	19世紀後半	磁	高63.5×幅37
マイセン磁器	色絵貼花狩猟図鹿浮彫蓋付パンチボウル	19世紀後半	磁	37×30.7
マイセン磁器	色絵オンドリ像	1922年か23年	磁	高37×幅18.4
マイセン磁器	色絵神話人物像「愛の束縛」	19世紀後半	磁	高31.7×幅34.1

□常設館以外の展示作品

■玄関ロビー

多田美波	周波数FL10-6874	1968年	ステンレス、ミラーガラス	247×273
------	--------------	-------	--------------	---------

■集会室前

島田忠恵	O & U	1972年	ブロンズ、ステンレス	200×200×100
------	-------	-------	------------	-------------

■屋外展示（中庭）

プールテル, エミール=アントワーン	ペネロペ	1907-12年	ブロンズ	240×90×70
島田忠恵	餓鬼	1971年	ブロンズ	350×280×100
高橋清	親和	1974年	御影石	250×258×175
飯野喜美子	グリーン・ベルト(1)	1976年	ステンレス	90×310×270
清水九兵衛	Affinityの継続-A	1976年	アルミニウム	55×286×180
小林泰彦	インヴォケーション(祈り)	1981年	ステンレス	224×68×57
杉浦康益	陶による石の群	1983年	陶器	50×40×40(×12)
青木秀憲	「いずみ」"IZUMI"	1981年	ステンレス	4.5×212×212
三木俊治	行列	1984年	ブロンズ、御影石	25×800×10

■野外彫刻

高橋清	Atlinemi(水の神)	1966年	ブロンズ	90×67×58
飯田善国	星と人間の間	1972年	ステンレス	1000×450×450
館野弘青	微笑	1974年	ブロンズ	180×60×46
堀内正和	ジグザグ立方体	1974年	ステンレス	106×216.5×106
関根伸夫	空相一円錐	1974年	黒御影石	120×120×120
保田春彦	ある街の片隅、忘れられた祠	1974年	花崗石、ステンレス	100×50×100
速水史朗	太陽の門	1978年	マンナリー石	300×128×90
ディーン, リチャード	カタツムリのように(A)	1987年	アルミニウム、鋼鉄	520×680×560
手塚登久夫	梟の森 2002	2002年	黒御影石、赤御影石	207×130×90
多田美波	周波数FL10-6874	1968年	ステンレス、ミラーガラス	247×273

コレクション展Ⅳ「かたちのチカラ」

展示期間＝ 令和6(2024)年1月13日(土)～3月3日(日)

本展は、作品にいのちを吹き込む「かたちのチカラ」を美術作品なかに探ろうと企画した。1階展示室は、「寿ぎのかたち」、「和のかたち」、「素材とわがが生み出すかたち」をテーマに構成。2階展示室は、「ひとがた」、「連なるかたち」、「ペア／シンメトリー」、「空のかたち」、「異形」などをテーマに、かたちが配置され、組み合わせられることによって、リズムやパターンを生み、安定感や動きを演出し現力を高めている美術作品を紹介した。

担当者＝ 鈴木さとみ(主任研究員)

作者名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(cm)
■1階展示室				
【寿ぎのかたち】				
石川寒巖	蓬萊仙境	1930年頃	紙本着色	153.5×56
小泉斐	富嶽全図巻	1801-1805年	紙本着色	34.3×1008.1
伝・椿椿山	花籠		絹本着色	137.9×69.2
小室翠雲	賦色紫桐丹鳳図	1939-45年	紙本着色	159.5×72.2
川端玉章	寿老・山水図		絹本墨画淡彩	101.7×33.7 (寄託)
小堀鞆音	布袋図		絹本着色	120×39 (寄託)
小堀鞆音	弁財天図		絹本着色	128×56 (寄託)
小堀鞆音	菅神図		絹本着色	106×40 (寄託)
荒井寛方	龍虎図	1931年	紙本着色	166.8×181.6
小堀鞆音	詩歌管弦		紙本着色	154.4×368.4(×2)
【和のかたち】				
小杉放菴	日光東照宮	1900年頃	紙、水彩	51×34
五百城文哉	日光東照宮		紙、水彩	33×49.2
斎藤清	DAITOKU-JI KYOTO(E)	1960年	紙、木版	52.7×38.8
斎藤清	TEA-HOUSE	1965年	紙、木版	38.5×52.8
斎藤清	WINDOW	1965年	紙、木版	53.2×38.3
斎藤清	KATSURA-KYOTO(N)	1965年	紙、木版	37.9×52.8
斎藤清	桂(京都)	1974年	紙、木版	37.8×52.7
笹島喜平	中村芝翫のお静	1948-51年	紙、木版	27.8×22.8
笹島喜平	くもの絶間姫、中村芝翫	1949年	紙、木版	31.5×25
笹島喜平	海老蔵の濡髪長五郎	1948-51年	紙、木版	27.8×22.9
笹島喜平	中村勘三郎の猿若舞	1948-51年	紙、木版	27.8×23
森田茂	黒川能(花の木のもとに)	1975年	カンヴァス、油彩	145.5×112.1
浜野友仙	姥	1979年	象牙	6.4×4.2×2.2
浜野友仙	翁	1979年	象牙	6.2×4.4×2
浜野友仙	狸々	1979年	象牙	6.2×4.2×3.2

浜野友仙	獅子口	1979年	象牙	6.4×4.9×3.3
入江美法	若女	1971年	檜材	21.5×13.5×7
入江美法	深井	1971年	檜材	21×14×7.5
入江美法	般若	1971年	檜材	26×18×9

【素材とわざが生み出すかたち】

濱田庄司	絵刷毛目扁壺	1931年頃	陶	30×24.5×15.4
濱田庄司	焼締窓絵土瓶	1940年頃	陶	28×25.7×19.5
濱田庄司	白釉黒流掛注瓶	1960年代	陶	23.1×18.7×16
濱田庄司	鉄絵茶碗	1972年	陶	8×φ14.3
島岡達三	初窯碗	1973年	陶	5.8×φ15.3
加守田章二	灰釉茶碗	1966年	陶	9.2×φ11.7
リー, ルーシー	黒と白の磁器の鉢	1962年頃	磁	12.8×φ30.5
加守田章二	面体炻壺	1969年	陶	30×21.9×19.5
加守田章二	大角皿	1968年頃	陶	14×70×53.7
吉田喜彦	黒陶多面体	1992年	陶	25×22×22
三井安蘇夫	草花文壺	1987年	銅、鍛金	26.3×φ26.7
広沢隆則	臙銀花挿 くもひとつ	2017年	臙銀、鍍金	30×13.5×9.5
岩田藤七	花器	1974年	ガラス、宙吹き	32×16×16
岩田久利	花器	1989年	ガラス、宙吹き	33.5×24.5×23.5
鈴木光爾	黒柿切子面箱「霽」	2000年	木、金	11.2×21×30.2
勝城蒼鳳	千筋捻摺漆花籃「漣」	2002年	竹	36×42.5×22
藤沼昇	束編花籃「阿呷」	2011年	竹	26×φ44
宮原楓翠	乾漆卵殻盛器	2000年	漆、麻布、卵殻	6.3×φ32.3

■1階 大壁面周辺の立体作品

デヴィッド・ナッシュ	テーブルと椅子	1984年	木(カバ)	240×340×340
デヴィッド・ナッシュ	歩く梯子	1984年	木(ニレ)	218×190×64
高木修	Untitled	1993年(2016年再制作)	鉄	136×570×111
青木秀憲	宙シリーズ 飛翔2001	2001年	アルミニウム	180×110×50
篠田守男	クロンボルグ城 T-C4305	1974年	アルミニウム、ワイヤー、真鍮	104×250×150
和久奈南都留	ふるさと	1980年	御影石	100×100×100

■2階展示室

【ひとがた】

テリー・ウィンタース	『14点のエッチング集』(14点のうち5点)	1989年	雁皮紙、紙、エッチング、フォトグラビュール	47.3×35.9
岸本清子	ペンペン草の生えた三木富雄の耳	1965年	紙、インク、水彩	20×14
岸本清子	バラの花が咲いた三木富雄の耳	1965年	紙、鉛筆、水彩	20×14.1
加藤清美	向こう側から No.1	1993年/1996年改作	紙、エッチング、アクアチント、ドライポイント	50×40.5

加藤清美	向こう側から No.2	1994年 /1996年改作	紙、エッチング、アクア チント、ドライポイント	46×40.5
【西洋絵画】				
アーンスト・ビー・ブラウン	九月の朝	1910年代	カンヴァス、油彩	39×44
J.M.W.ターナー	風景、タンバリンをもつ女	1840-50年頃	カンヴァス、油彩	88.5×118
リチャード・ウィルソン	アクア・アチエトーサ	1754年頃	カンヴァス、油彩	99.1×137.2
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1805-17年頃	カンヴァス、油彩	52.8×44.8
【連なるかたち】				
飯田善国	クロマトポイエマNo.18	1972年	紙、アクリル、シルクスクリーン	75×55
飯田善国	クロマトポイエマNo.12	1972年	紙、アクリル、シルクスクリーン	75×55
オノサト・トシノブ	シルク No.61	1974年	紙、シルクスクリーン	24×33
オノサト・トシノブ	シルク No.62	1974年	紙、シルクスクリーン	24×33
田中敦子	1966	1966年	カンヴァス、合板、塩化ビ ニール樹脂塗料	φ 162.5
渡辺豊重	棒の付いた四角と点	1980年	紙、シルクスクリーン	40×56
渡辺豊重	二つの四角のあいだ(ピクニック)	1980年	紙、シルクスクリーン	40×56
渡辺豊重	三つの点と曲りと四角(ピクニック)	1980年	紙、シルクスクリーン	38×49
渡辺豊重	丸、四角、三角そして棒と点	1984年	紙、シルクスクリーン	44×63.5
川上澄生	ろまんちっく手摺千代紙 (18点のうち(10),(11),(14),(15),(18))	1935年	紙、木版多色刷	32×22.3
【ペア／シンメトリー】				
古川龍生	外苑白雨	1934年	紙、木版	28×41
古川龍生	外苑白雨	1935年	紙、木版	23.3×35.4
古川龍生	街	1960年	紙、木版	30×38.5
古川龍生	街	1960年	紙、木版	33×40
嶋剛	鉛筆画C	1979年	板、ジェッソ、鉛筆	91×117
嶋剛	鉛筆画C'	1979年	写真	91×117
篠原佳尾	Caosのデカルコマニー E夫人の庭A.B(20点組のうち12点)	1977年	紙、デカルコマニー	11×15.7
篠原佳尾	題名不詳	1980年	紙、デカルコマニー3点	19.7×27.3
佐藤時啓	無題(C#3)	1987年	ゼラチンシルバープリント	48×58
【空のかたち】				
野村仁	a Spin in curved air	1982年	タイプCプリント	50.8×61.8
野村仁	a spin in curved air	1982年	写真	50.8×61
野村仁	rotation of the earth	1981年	タイプCプリント	50.8×61
嶋剛	無題 A	1981年	カンヴァス、アクリル	228×182
田中田鶴子	時間と空間No.11	1988年頃	カンヴァス、アクリル	90.5×117
田中田鶴子	時間と空間No.10	1988年頃	カンヴァス、アクリル	99×65
入江観	電柱の人	1976年	カンヴァス、油彩	145.5×97
【異形】				
小山田二郎	面をかぶった子供	1962年頃	カンヴァス、油彩	73×61

小山田二郎	鳥女	1956年	カンヴァス、油彩	117×80
小山田二郎	野蛮人	1954年	カンヴァス、油彩	145.5×112.1
尾藤豊	とられた土地	1960年	カンヴァス、油彩	137.8×195.3
池田龍雄	天使 化物の系譜シリーズ	1956年	紙、インク、水彩	37.9×29.3
池田龍雄	花神 化物の系譜シリーズ	1956年	紙、インク、水彩(サイン部分)	37.7×29
池田龍雄	鉄仮面 化物の系譜シリーズ	1956年	紙、インク	37.7×29
豊島弘尚	例えばひねこびて嘲笑いの頭部	1964年	カンヴァス、鉛筆、油彩	130×162
綿引展子	欠落へとりもどす自由な悔恨は私のもの	1999年	和紙、オイルパステル	210×170
元永定正	はに、はに	1978年	カンヴァス、アクリル	92×130.5
元永定正	くりー、くりー	1978年	カンヴァス、アクリル	92×130.5

【かたちが見えなくても】

福田美蘭	コインプリント 10/500	1999年	紙、オフセット (コインプリント)	35.1×27.3
------	----------------	-------	----------------------	-----------

■ 2 階展示室の立体作品

神山明	伝説	1989年	杉、オイルステイン	147×99×99
伊藤公象	収縮性小曲面体	1980年 (再制作93年)	陶、アクリル	61.5×107.3×130
篠原有司男	モーターサイクル・ママ	1973年	カート'ボート'、ポリエステル 樹脂 510694	158×235×128

《伊東直子マイセン磁器コレクション》

マイセン磁器	色絵アモル像「ふたりのハートに火をつける」	1900年前後	磁	高17.6
マイセン磁器	色絵楽奏猿群像「猿のオーケストラ」	1766-18世紀末	磁	高16.5(22種23ヶ)
マイセン磁器	赤絵楽奏人物群像	1924-34年	磁	高29.6(4ヶ)
マイセン磁器	色絵ブット像「夏と秋の寓意」	1770年頃	磁	高23.6×幅21.5
マイセン磁器	藍地金彩色絵花卉宮廷人物図植木鉢	19世紀末	磁	高28.2×21.3(2ヶ)
マイセン磁器	色絵燭台ポブリ壺付暖炉用センターピース	1782-90年頃	磁	57.2×32.8(2ヶ)
マイセン磁器	色絵ブット立像「漁師」	18世紀後半	磁	高14.3×幅23.3
マイセン磁器	黒地ベットガー妬器赤絵金彩人物図瓶	1710-15年頃	磁	12.5×10.3
マイセン磁器	色絵人物像「羊飼いと羊にのるブット」	18世紀後半	磁	高10.4×幅12.8
マイセン磁器	色絵金彩人物図蓋付双耳鉢、受皿	1725-30年頃	磁	鉢高9.1受皿径13.8
マイセン磁器	色絵神話人物像「ウェヌス、アドニスとクビド」	1750-60年代	磁	高15×幅14.4
マイセン磁器	色絵金彩人物図ティーポット	1735年頃	磁	高9.7×幅16
マイセン磁器	色絵花卉図ポブリ壺・アモル立像「着衣のアモル」・花飾り	1750-60年代	磁	高21×幅23.5
マイセン磁器	色絵人物図カップ&ソーサー	1730-40年代	磁	カップ高4.6×径7.7、ソーサー径13.4
マイセン磁器	色絵神話人物像「大地の寓意 フローラ」	1760年頃	磁	高16×幅15
マイセン磁器	金彩樹下人物図カップ&ソーサー 「金の中国人」	1730年頃	磁	カップ高4.5×径7.7、ソーサー径12.4
マイセン磁器	色絵ポブリ壺付群像「慈愛の寓意」	18世紀中頃	磁	高26×幅19
マイセン磁器	色絵花卉図輪花鉢	1730年代	磁	高4.5×径13
マイセン磁器	色絵梅鶉図輪花鉢	1774-1814年頃	磁	高5.2×径13.3

マイセン磁器	色絵東洋人坐像「ゆれるバゴダ像」	19世紀末	磁	17.9×18.5
マイセン磁器	色絵獅子昆虫花鳥図スルコウスキー・オツイエルリーフ皿	1735-45年頃	磁	5.8×φ34.6
マイセン磁器	色絵花飾鳥ブット像鏡	19世紀中頃か後半	磁	130×80
マイセン磁器	色絵花飾田園人物図蓋付双耳ポプリ壺	19世紀後半	磁	高63.5×幅37
マイセン磁器	色絵貼花狩猟図鹿浮彫蓋付パンチボウル	19世紀後半	磁	37×30.7
マイセン磁器	色絵オンドリ像	1922年か23年	磁	高37×幅18.4
マイセン磁器	色絵神話人物像「愛の束縛」	19世紀後半	磁	高31.7×幅34.1

□常設館以外の展示作品

■玄関ロビー

多田美波	周波数FL10-6874	1968年	ステンレス、ミラーガラス	247×273
------	--------------	-------	--------------	---------

■集会室前

島田忠恵	O & U	1972年	ブロンズ、ステンレス	200×200×100
------	-------	-------	------------	-------------

■屋外展示（中庭）

エミール=アントワヌ・ブールデル	ペネロペ	1907-12年	ブロンズ	240×90×70
島田忠恵	餓鬼	1971年	ブロンズ	350×280×100
高橋清	親和	1974年	御影石	250×258×175
飯野喜美子	グリーン・ベルト(1)	1976年	ステンレス	90×310×270
清水九兵衛	Affinityの継続-A	1976年	アルミニウム	55×286×180
小林泰彦	インヴォケーション(折り)	1981年	ステンレス	224×68×57
杉浦康益	陶による石の群	1983年	陶器	50×40×40(×12)
青木秀憲	「いずみ」"IZUMI"	1981年	ステンレス	4.5×212×212
三木俊治	行列	1984年	ブロンズ、御影石	25×800×10

■野外彫刻

高橋清	Atlinemi(水の神)	1966年	ブロンズ	90×67×58
飯田善国	星と人間の間	1972年	ステンレス	1000×450×450
館野弘青	微笑	1974年	ブロンズ	180×60×46
堀内正和	ジグザグ立方体	1974年	ステンレス	106×216.5×106
関根伸夫	空相一円錐	1974年	黒御影石	120×120×120
保田春彦	ある街の片隅、忘れられた祠	1974年	花崗石、ステンレス	100×50×100
速水史朗	太陽の門	1978年	マンナリー石	300×128×90
ディーン・リチャード	カタツムリのように(A)	1987年	アルミニウム、鋼鉄	520×680×560
手塚登久夫	梟の森 2002	2002年	黒御影石、赤御影石	207×130×90

■アートリンクとちぎ2023

石川寒巖 — 栃木生まれの近代南画家 —

会 期＝ 令和6(2024)年1月20日(土)～3月3日(日)【実開催日数 38日】

前期:1月20日(土)～2月18日(日)
後期:2月20日(火)～3月3日(日)

主 催＝ 佐野市立吉澤記念美術館、栃木県立美術館

会 場＝ 佐野市立吉澤記念美術館

出品点数＝ 総数54点(うち栃木県立美術館蔵46点)

大正時代に「新南画」と呼ばれる新しい日本画を追求した黒羽町(現・大田原市)生まれの石川寒巖(1890－1836)の作品に見られる近世以前の南画の要素(小泉斐、浦上玉堂など)と、それ以外の要素(近代南画、後期印象派、やまと絵、写実など)に注目し、それらをどのように織りなして独自の画風を創り上げたかを考える。志田主任によるギャラリー・トークを開催。

担 当＝ 志田康宏(主任)

観覧者数＝ 526人(1日平均 14人)

No.	作者名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(cm)	所蔵館	展示期間
-----	-----	-----	-----	-------	--------	-----	------

エントランス

1	[原本:伊藤若冲]	菜蟲譜(複製) やまもも・うど周辺	2015年 [1790年頃]	紙本印刷 一巻 [絹本着色 一巻]	31.8×1095.3	佐野市立吉澤記念美術館(京都文化協会制作・寄贈)	
2	石川寒巖	春景図		紙本着色 一面	66.5×133	栃木県立美術館	

第1室 石川寒巖—近くで見る寒巖の筆

3	石川寒巖	日本橋浜町河岸	1910年	カンヴァス、油彩 一面	41.1×27.4	栃木県立美術館	
4	石川寒巖	「日本橋浜町河岸」下図 (『明治43年素描帖』より)	1910年	紙、鉛筆 一冊	14×20	栃木県立美術館	
5	石川寒巖	戯画		紙本着色 一幅	135.6×31.8	栃木県立美術館	
6	石川寒巖	大正大震災図之一 避難	1923年	紙本着色 一面	29×54	栃木県立美術館	
7	石川寒巖	大正大震災自図之一 自警団	1923年	紙本着色 一面	29×50.2	栃木県立美術館	
8	石川寒巖	東京近郊スケッチ(5)	1925年	紙、鉛筆、水彩 一面	21.8×29.3	栃木県立美術館	
9	石川寒巖	行人		紙、水彩 一面	105×152	栃木県立美術館	
3	石川寒巖	後徳大寺左大臣		紙本墨画 一幅	38.5×43.7	栃木県立美術館	前期
4	石川寒巖	白文公		紙本着色 一幅	137.3×35.3	栃木県立美術館	後期
5	石川寒巖	西王母	1932年	紙本墨画 一幅	131×55.5	栃木県立美術館	
6	石川寒巖	寒山拾得	1933年	紙本着色 一面	90×85	栃木県立美術館	
7	石川寒巖	鰈図	1930年	紙本着色 一幅	52×58.5	栃木県立美術館	
8	石川寒巖	馬図	1930年代	絹本墨画 一幅	26.4×23	栃木県立美術館	

9	石川寒巖	魚釣		紙本着色 一幅	33.4×49	栃木県立美術館
20	清水多嘉示	岩に倚る	不詳	ブロンズ	13.5×31×36	
21	木内克	裸婦	不詳	ブロンズ	18×15×35.5	

第2室 吉澤コレクション—小さな日本画と板谷波山の陶芸—

10	田崎草雲	撫古山水画冊	1877年	紙本着色 一幀	29.7×66.7	佐野市立吉澤記念美術館寄託(吉澤コレクション)
11	高久靄厓	山水図	江戸時代後期	絹本墨画 一幅	上:27.3×18.1 下:27×17.2	佐野市立吉澤記念美術館蔵(吉澤コレクション)
12	山本梅逸	竹薔薇図扇	江戸時代		14.5×42.2	(吉澤コレクション)
13	中林竹洞	木石幽篁図扇	江戸時代		18×46.5	(吉澤コレクション)
14	片桐桐陰	『瑰奇帖』より 唐人物図	1812年	絹本着色	25×16.6	(吉澤コレクション)
15	平野五岳	桃源山水図	1846年	絹本着色 一幅	22.7×24.3	佐野市立吉澤記念美術館蔵(吉澤コレクション)
16	板谷波山	青磁延寿文花瓶	1926年頃	陶磁	26.7×28.4	佐野市立吉澤記念美術館蔵(吉澤コレクション)
17	板谷波山	平茶碗	大正後期 (1919-1926年頃)	陶磁	15.1×5.1	佐野市立吉澤記念美術館蔵(吉澤コレクション)
18	板谷波山	彩磁延寿文香炉	昭和20(1945)年代	陶磁	10.5×9.7	佐野市立吉澤記念美術館蔵(吉澤コレクション)
19	板谷波山	窯変磁瓢花瓶	大正前期 (1912-1919年頃)	陶磁	径12.6×高16	佐野市立吉澤記念美術館寄託(吉澤コレクション)
20	小室翠雲	菜の花色紙	1920年	絹本金地着色 一面	27.1×24.1	佐野市立吉澤記念美術館寄託(吉澤コレクション)
21	石川寒巖	柿色紙		絹本着色 一面	27.1×24	佐野市立吉澤記念美術館寄託(吉澤コレクション)
22	岡田華郷	茄子にきりぎりす図扇	昭和初期 (1926年頃)	紙本着色 一面	12.7×39.4	佐野市立吉澤記念美術館寄託(吉澤コレクション)
23	矢野橋村	四時画冊	1937年	絹本着色、画帖 一帖	21.1×57.4	佐野市立吉澤記念美術館寄託(吉澤コレクション)

第3室 石川寒巖—のびやかさと端正さと

24	石川寒巖	山村暮秋	1926年頃	紙本着色 二曲一双	167×168.8(×2)	栃木県立美術館	前期
25	石川寒巖	雪山宝塔図	1919年頃	紙本墨画 一幅	218.5×90	栃木県立美術館	前期
26	石川寒巖	漁舟(白鷺図)	1922年頃	紙本墨画 一幅	140.5×79.5	栃木県立美術館	前期
27	石川寒巖	江郷夕照	1921年頃	紙本着色 一幅	268×95.9	栃木県立美術館	前期
28	石川寒巖	踏断流水	1929年頃	紙本着色 一幅	214.7×122.9	栃木県立美術館	前期
29	石川寒巖	四季山水	1930年頃	紙本着色 四幅	(春)169.4×55 (夏)169.4×55.2 (秋)169.5×55 (冬)170×55.3	栃木県立美術館	前期
30	石川寒巖	孔雀図	昭和5(1930)年代初	絹本着色 一幅	161.7×61.5	栃木県立美術館	前期
31	石川寒巖	白梅図	1934年	紙本着色 二面	168.2×110	栃木県立美術館	前期
32	石川寒巖	大正大地震大火災之巻	1923年	紙本墨画 一卷	27.8×1036	栃木県立美術館	

33	石川寒巖	山水六題(短冊)		紙本淡彩 六面	26.1×6(×6)	栃木県立美術館	
34	石川寒巖	世説新語	1934年	紙本着色 一帖	38.5×46.8	栃木県立美術館	
35	石川寒巖	仿古冊	1927年	紙本着色 一帖	21.3×15.2	栃木県立美術館 寄託	
36	石川寒巖	蓬萊仙境	1928年	紙本着色 六曲一双	189×364(×2)	栃木県立美術館	後期
37	石川寒巖	満山之秋	1922年	紙本着色 一幅	213×76	栃木県立美術館	後期
38	石川寒巖	松林図	1924年	絹本着色 一面	101.5×146.5	栃木県立美術館	後期
39	石川寒巖	蘭	1930年	紙本着色 二曲一隻	142×170	栃木県立美術館	後期
40	石川寒巖	子牛	1931年	紙本金地着色 六曲一隻	170×366	栃木県立美術館	後期

第4室 資料から見る寒巖

41	石川寒巖	身辺四題[茸]		紙本着色 四面のうち	25.2×53.6	栃木県立美術館	
42	石川寒巖	身辺四題[雀]		紙本着色 四面のうち	25.2×53.6	栃木県立美術館	
43	石川寒巖	寒巖録(大正9年)	1920年	紙本墨書 一冊	23×16	栃木県立美術館	
44	石川寒巖	寒巖録(大正11、13年)	1922年、 1925年	紙本墨書 一冊	25×15	栃木県立美術館	
45	石川寒巖	注文控		紙本墨書 一冊	22×14	栃木県立美術館	
46	石川寒巖	素描帖		紙本墨書 一冊	14×20	栃木県立美術館	
47	石川寒巖	素描帖		紙本墨書 一冊	14×20	栃木県立美術館	
48	石川寒巖	古画スケッチ		紙本墨書 一冊	20×12	栃木県立美術館	
49	石川寒巖	目録索引(大蟲庵蔵)		紙本墨書 一綴	22×14	栃木県立美術館	
50	石川寒巖	和亭全集第一輯	1912年	紙本印刷 一冊	25×17	栃木県立美術館	
51	石川寒巖	日記帳(大正15年)	1926年	紙、鉛筆 一冊	24×17	栃木県立美術館	
52	石川寒巖	日記帳(昭和2年)	1927年	紙、鉛筆 一冊	24×17	栃木県立美術館	
53	石川寒巖	日記帳(昭和10年)	1935年	紙、鉛筆 一冊	24×17	栃木県立美術館	
54	石川寒巖	菜果図		紙本着色 一幅	38×43	栃木県立美術館	

生誕 130 年 古川龍生木版画展 人物モチーフと街景・海浜風景

会 期＝ 令和5(2023)年10月28日(土)～12月10日(日)【実開催日数 37日】
主 催＝ 小山市立車屋美術館、栃木県立美術館
会 場＝ 小山市立車屋美術館
出品点数＝ 50点

小山市羽川出身の木版画家・古川龍生(1893-1968)の生誕 130 年の節目に、木版画一筋に創作をつづけた画業と造形世界の展開を紹介。大城研究員によるギャラリートークを開催。

担 当＝ 大城茉里恵(研究員)
観覧者数＝ 1449人(1日平均 39人)

No.	作者名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(cm)
1	古川龍生	訪客図	1927年	紙、木版	22.5×30
2	古川龍生	婚礼参列者	1928年	紙、木版	35×40
3	古川龍生	読書	1930年	紙、木版	53.3×47.5
4	古川龍生	婦人ゴルフ姿 打球	1932年	紙、木版	33×25
5	古川龍生	美人四季(春)	1932年	紙、木版	38×28
6	古川龍生	美人四季(夏)	1932年	紙、木版	38×28
7	古川龍生	美人四季(秋)	1932年	紙、木版	38×28
8	古川龍生	美人四季(冬)	1932年	紙、木版	38×28
9	古川龍生	四季少女図(春)	1936年	紙、木版	41×31
10	古川龍生	四季少女図(夏)	1936年	紙、木版	40×31.5
11	古川龍生	四季少女図(秋)	1936年	紙、木版	40×31.5
12	古川龍生	四季少女図(冬)	1936年	紙、木版	40×31.5
13	古川龍生	下野の女	1944年	紙、木版	33×25.5
14	古川龍生	老農	1954年	紙、木版	27×36
15	古川龍生	郊外風景	1955年	紙、木版	24×34
16	古川龍生	楽しい日曜日	1958年	紙、木版	27×32
17	古川龍生	記憶の風景	1958年	紙、木版	31×32.5
18	古川龍生	少女	1958年	紙、木版	30.2×25.7
19	古川龍生	少年	1958年	紙、木版	32×29
20	古川龍生	街C	1959年	紙、木版	25.3×30.7
21	古川龍生	街B	1960年	紙、木版	34×28
22	古川龍生	街の広場	1960年	紙、木版	30.5×40
23	古川龍生	街C	1961年	紙、木版	40×35
24	古川龍生	野の家族	1961年	紙、木版	28.3×25.3
25	古川龍生	人を待つ街かど	1961年	紙、木版	21×33

26	古川龍生	街A	1961年	紙、木版	35×29
27	古川龍生	自画像	1961年頃	紙、木版	31×22
28	古川龍生	街上風物	1962年	紙、木版	30×25
29	古川龍生	510694	1962年	紙、木版	31×24
30	古川龍生	銀座の或る店	1962年	紙、木版	30×26
31	古川龍生	芝生の庭と老人と孫たち	1965年	紙、木版	34.5×29
32	古川龍生	海辺の家	1965年	紙、木版	38×30
33	古川龍生	海辺の町の銀座通り	1965年	紙、木版	38×29
34	古川龍生	海のつどい	1966年	紙、木版	26×33
35	古川龍生	水浴図	1966年	紙、木版	15.5×19
36	古川龍生	夏の砂浜	1966年	紙、木版	15.5×20
37	古川龍生	海辺の更衣室	1967年	紙、木版	29×36
38	古川龍生	真夏の海辺	1967年	紙、木版	30.5×41.5
39	古川龍生	海の少女たち	1967年	紙、木版	30.5×34
40	古川龍生	師走の逗子の銀座通り	1968年	紙、木版	25.5×39.5
41	古川龍生	稿画集	1910年		13.4×19.4
42	古川龍生	「野球スケッチ」古川たつお画	1914年		14.5×10.5
43	古川龍生	「野球スケッチ」表紙付きバラ			16×12.7
44	古川龍生	絵入り歌集「春怨」	1916年？		パネル展示
45	古川龍生	(スケッチ集)	1916年		30.5×22.5
46	古川龍生	スケッチブック	1922年		29×25.5
47	古川龍生	「NOTE BOOK」 千九百十六年十月二十日 日本画科 古川龍夫	1931年		
48		栃木県立美術館で開催した古川龍生展のポスター	2018年、2006年、1975年		

挿絵本の世界へようこそ ―19世紀フランス・イギリスの美しい書物―

会 期＝ 令和5(2023)年11月30日(木)～12月11日(月)【実開催日数 11日】

主 催＝ 真岡市教育委員会、栃木県立美術館

会 場＝ 久保記念観光文化交流館 美術品展示館

出品点数＝ 27点

栃木県立美術館収蔵作品より、19世紀に黄金時代を迎えたフランス・イギリスの美しい挿絵本を紹介。大城研究員によるギャラリートークを開催。

担 当＝ 大城茉里恵(研究員)

観覧者数＝ 794人(1日平均 72人)

No.	作者名	作品名	制作年	材質技法	寸法(cm)
1	原画:ケイト・グリーンナウェイ 版刻:エドモンド・エヴァンズ	ケイト・グリーンナウェイ『窓の下で』	1878年	多色刷木口木版	24×18.8
2	原画:ケイト・グリーンナウェイ 版刻:エドモンド・エヴァンズ	ロバート・ブラウニング『ハーメルンの笛吹き』	1888年	多色刷木口木版	25.5×22
3	エドワード・リア	『ナンセンスの絵本』	1878年頃 (1846年初版)	多色刷木口木版	27.2×23.2
4	J.J.グランヴィル	J. メリー『星々』	1849年刊	鋼板(ジョフロワ刻)、 手彩色	27.5×19.4
5	ギュスターヴ・ドレ	H.ド・バルザック『風流滑稽譚』	なし(初版 1855年刊)	木口木版	19.7×12.8
6	ギュスターヴ・ドレ	ダンテ・アリギエーリ『地獄篇』	1861年刊	木口木版	43.8×32.5
7	ギュスターヴ・ドレ	ラ・フォンテーヌ『寓話』	なし(初版 1868年刊)	木口木版	32.7×29.5
8	アルフォンス・ミュシャ	『主の祈り』	1899年刊	多色刷リトグラフ、 挿図:ヘリオグラヴィール	40.8×30.5
9	ピエール・ボナール	C.テラス曲『ピアノのための家族の情景集』	1895年刊	リトグラフ	35.5×27.5
10	モーリス・ドニ	F.トンブソン『詩集』	1942年刊	多色刷リトグラフ (クロ刷り)	38.8×28.7
11	ジョルジュ・バルビエ、 アンドレ・マルティ他	モード雑誌『ガゼット・デュ・ボン・トン』	1921年1月 ～12月	ボショワール	26×20
12	原画:オーブリー・ビアズリー	トマス・マロリー『アーサー王の死』 1巻	1893-94年	ライン・ブロック、 フォトグラヴィール	23.8×18.6
13	原画:オーブリー・ビアズリー	トマス・マロリー『アーサー王の死』 2巻	1893-94年	ライン・ブロック、 フォトグラヴィール	23.8×18.6
14	原画:エリック・ギル 刷り:ロバート・ギビングズ	『雅歌』	1925年	木口木版	26.2×19.5
15	原画:ウォルター・クレイン 版刻:エドマンズ・エヴァンズ	ウォルター・クレイン『ハバートおばさんの絵本』(ウォルター・クレインの絵本 第2巻)	1897年(1873 年刊、1876年 刊、1874年刊 の合本)	多色刷木口木版	27.5×22.8
16	ウォルター・クレイン	『フローラの饗宴』	1889年	多色刷石版	25.4×19
17	ウォルター・クレイン	『クイーン・サマー、あるいは百合と薔薇の騎馬試合』	1891年	多色刷石版	28.6×20.5

■諸 表

1. 展覧会事業

(1) 企画展

No.	展覧会名	会期	実日数 (日)	出品点 数(点)	観覧者数 (人)	1日平均 (人)	内容
1	川島理一郎 ―描くことは即ち見ること	4月15日(土)～ 6月18日(日)	56	134	4,791	86	足利市生まれの洋画家川島理一郎の個展。渡米や渡欧時の交友関係をもとに、帰国後も日仏文化交流に尽力し、画壇では梅原龍三郎と国画創作協会展に参加したり、のちに国画会を組織したりと、精力的な活動をした。その川島の画業を新収蔵品を含めて紹介。 (巡回:足利市立美術館)
2	今日の彫刻― 富井大裕	7月8日(土)～ 9月3日(日)	50	64	3,556	71	彫刻についての思索を起点とした美術表現の展開の可能性を追求する武蔵野美術大学教授富井大裕の個展。家庭用品や文房具、事務用品など既製品から本来の意味や機能を解放し、無二の彫刻として新たな様相を現前させる富井作品を紹介。
3	第77回栃木県芸術祭美術展	9月23日(土)～ 10月5日(木)	11	232	2,252	205	第1期:洋画・彫刻・工芸 (共催:県、県文化協会)
4	栃木県誕生150年記念 下野新聞創刊145周年記念 文晁と北斎 ―このふたり、ただものにあらず	10月21日(土)～ 12月24日(日)	56	132	26,542	474	江戸絵画界において大御所としてその名の知れた谷文晁と浮世絵や肉筆画で全国にその名が知られた北斎の2人の画業の一端を紹介。個人コレクターの所蔵する作品を中心に未公開作品を含めて展示。(共催:下野新聞社)
5	春陽会誕生100年 それぞれの闘い 岸田劉生、中川一政から岡鹿之助へ	令和6(2024)年 1月13日(土)～ 3月3日(日)	44	174	4,011	91	春陽会は、再興院展洋画部を脱退した本県出身の画家小杉放菴、山本鼎、森田恒友らと草土社の岸田劉生、中川一政らを中心メンバーとして発足した絵画団体。発足から100年が経つのを契機に、春陽会に集った画家たちが各時代の中でどのような活動したきたのかを紹介。 (巡回:東京ステーションギャラリー、長野県立美術館、碧南市藤井達吉現代美術館)
計			217	736	41,152	190	

(2) 常設展

No.	展覧会名	会期	実日数 (日)	出品点 数(点)	観覧者数 (人)	1日平均 (人)	内容
1	コレクション展Ⅰ 田崎草雲・小室翠雲 — 関東南画の源流	4月15日(土)～ 6月18日(日)	56	136	3,938	70	関東南画壇の礎を築いた足利出身の田崎早雲とその弟子・小室翠雲の作品を特集するとともに、石川寒巖・大山魯牛にまでに至る新南画の潮流を紹介。
2	コレクション展Ⅱ 美術館に行ってみよう！	7月 8日(土)～ 10月 5日(木) ※9月4日(月)～ 22日(金)は休館	61	136	5,207	85	子どもから大人にまで、美術館が初めての方にも楽しんでいただけるよう、鑑賞のヒントとともに所蔵作品を紹介。
3	コレクション展Ⅲ 木版画の表現	10月21日(土)～ 12月24日(日)	56	127	25,303	452	学校で習う私たちに身近な木版画。板目木版や木口木版、拓版画など様々な木版画の表現を紹介。
4	コレクション展Ⅳ かたちのチカラ	令和6(2024)年 1月13日(土)～ 3月 3日(日)	44	168	2,969	67	素材の特性を生かしたミニマルな造形美は工芸の魅力のひとつ。かたちと素材の魅惑の世界を紹介。
計			217	567	37,417	172	

(3) アートリンクとちぎ2023

No.	展覧会名	出品点 数(点)	実施館	観覧者数 (人)	1日平均 (人)	内容
1	生誕130年 古川龍生木版画展 — 人物モチーフと街景・海浜風景	50	小山市立車屋美術館 10月28日(土)～ 12月10日(日) (37日間)	1,449	39	小山市出身の版画家・古川龍生の生誕130年の節目に画業を紹介
2	挿絵本の世界へようこそ — 19世紀フランス・イギリスの美しい書物 —	27	真岡市久保記念観光文化交流館 美術品展示館 11月30日(木)～ 12月11日(月) (11日間)	749	72	19世紀に黄金時代を迎えたフランス・イギリスの美しい挿絵本を紹介
3	石川寒巖	46	佐野市立吉澤記念美術館 令和6(2024)年 1月20日(土)～ 3月 3日(日) (38日間)	526	14	大正期に「新南画」と呼ばれる新しい南画を追求した石川寒巖の独自の画風がいかにして創り上げられたかを、その時代背景や影響関係から考察
計				2,724	32	

2. 普及教育事業

(1) 普及教育プログラム(企画展・常設展関係)

No.	事業名	講師・出演者等	実施期日	会場	参加者数 (人)	内容
1	学芸員によるギャラリー・トーク	講師：大城 茉里恵(研究員)	4月15日(土)	企画展示室	35	「川島理一郎」展にあわせて実施
			5月14日(日)		10	
			6月4日(日)		26	
2	アーティスト・トーク	講師：富井大裕	7月8日(土)	企画展示室	76	「富井大裕」展にあわせて実施
3	学芸員によるギャラリー・トーク	講師：橋本慎司(副館長兼学芸課長)	10月21日(土)	企画展示室	98	「文晁と北斎」展にあわせて実施
			11月18日(土)		71	
			12月16日(土)		102	
4	放談	講師： 板倉聖哲 (東京大学東洋文化研究所教授) 樋口一貴 (十文字学園女子大学教授) 橋本慎司 (副館長兼学芸課長)	10月21日(土)	集会室	110	「文晁と北斎」展にあわせて実施
5	リレー・ギャラリー・トーク	講師： 田中晴子 (東京ステーションギャラリー学芸室長) 鈴木幸野 (長野県立美術館学芸員) 田邊咲智 (碧南市藤井達吉現代美術館学芸員)	令和6(2024)年 1月13日(土)	企画展示室	72	「それぞれの闘い」展にあわせて実施
6	鼎談	講師： 入江観(洋画家・春陽会会員) 原田 光 (元岩手県立美術館長) 土方明司 (川崎市岡本太郎美術館長)	令和6(2024)年 1月14日(日)	集会室	57	「それぞれの闘い」展にあわせて実施
7	学芸員によるギャラリー・トーク	講師： 木村理恵子 (特別研究員)	令和6(2024)年 2月 4日(日)	企画展示室	25	「それぞれの闘い」展にあわせて実施
			令和6(2024)年 3月 3日(日)		22	

No.	事業名	講師・出演者等	実施期日	会場	参加者数 (人)	内容
8	美術館スタンプ・ラリー	自由観覧	会期中随時	企画展示室 常設展示室	13,853	幼・保・小・中学生だけではなく、大高生、一般の美術館利用を促進 年間に5回以上の利用者に記念品贈呈
9	音声ガイド	「文晁と北斎」展	10月21日(土)～ 12月24日(日)	企画展示室	実施	来館者がスマートフォンから音声ガイドを入手する方法(ダウンロード)で実施
10	作品ガイド 多言語化文字解説	主要作品	通年	常設展示室	実施	タブレット貸出しによる作品解説を提供
11	とちぎデジタルミュージアム「SYUGYOKU」 音声ガイド	主要作品	通年	常設展示室	実施	来館者がQRコードを読み込む方法で実施
12	ママパパ鑑賞応援デー	講師:当館普及 スタッフ	8月27日(日)	常設展示室	135	未就学児を連れた家族を対象に、展示解説やワークシートの配布などを実施
13	県美アートクルーズ	講師:当館普及 スタッフ	会期中随時	企画展示室 常設展示室	実施	県公用バスを利用して、申し込みをした小・中学校、高校まで送迎を行い、美術館鑑賞教育を支援
	県立茂木高等学校	「富井大裕」展	7月26日(水)	企画展示室 常設展示室	生徒 16 引率 2	
	県立栃木特別支援学校	「それぞれの闘い」展	令和6(2024)年 2月21日(水)	企画展示室 常設展示室	生徒 10 引率 4	

(2) 普及教育プログラム

No.	事業名	講師・出演者等	実施期日	会場	参加者数 (人)	内容
1	先生のための美術館活用術	講師:当館普及 スタッフ	随時	会議室	希望者なし	教職員を対象に美術鑑賞教育のさまざまな方法を提案、指導法を協議
2	アートラウンジ さくら塾	講師: 鈴木武雄 (作新学院高等学校美術デザイン科) 名取初穂 (國學院大學栃木短期大学) 花田千絵 (作新学院大学女子短期学部) 本田悟郎 (宇都宮大学教育学部) 吉田利雄 (文星芸術大学)	6月18日(日)	集会室	105	《スマホでコマ撮りアニメを作ろう》 協力:作新学院高等学校美術デザイン科
			7月16日(日)	集会室	99	《透きとおる色を楽しもう》 協力:宇都宮大学教育学部
			8月20日(日)	集会室	110	《シルエット・ドローイング》 協力:作新学院高等学校美術デザイン科
			9月24日(日)	集会室	145	《ぴかぴかアクセサリを作ろう》 協力:作新学院高等学校美術デザイン科
			12月17日(日)	集会室	122	《とびだすカードを作ろう》 協力:作新学院大学女子短期大学部
			令和6(2024)年 1月21日(日)	集会室	79	《石膏を使って反転レリーフを作ろう》 協力:文星芸術大学
			令和6(2024)年 2月25日(日)	集会室	90	《パティシエ気分でSWEETキャンドルづくり♪》 協力:國學院大學栃木短期大学

3	美術館ふしぎ発見！	講師：当館普及スタッフ	5月7日(日)	常設展示室 屋外展示場	26	美術館の作品だけでなく建物や施設を紹介(小学生同伴の保護者の観覧料無料)
4	親と子のための美術鑑賞教室	講師：当館普及スタッフ	11月12日(日) 令和6(2024)年 2月18日(日)	常設展示室 集会室	30 21	親子を対象としたミニワークショップ付鑑賞会(幼児・小学生同伴の保護者の観覧料無料)
5	夏休みワークショップ 「かけて、はって、糸から始まるオブジェを作ろう！」	講師：渡邊恵美子(織造形家)	7月23日(日)	集会室	46	小枝にキラキラ、モコモコ、色とりどりの糸をかけオブジェを制作
6	夏休みこども企画 美術館クイズ探検	講師：当館普及スタッフ	8月6日(日)	常設展示室 集会室	41	クイズを解きながら常設展示を解説
7	大人の図工室 「木口木版画の世界」	講師：島 一嘉(美術家)	11月5日(日) 11月19日(日)	集会室	14 14	ビュランという彫刻刀で繊細な線を刻む木口木版画の体験

(3) 学校への対応ー1 社会見学等

No	事業名	実施期日	参加者数(人)
1	宇都宮市立宮の原中学校 宮っ子チャレンジ・ウィーク	10月25日(水)～ 27日(金)	2
2	宇都宮市立清原中学校 宮っ子チャレンジ・ウィーク	11月14日(火)～ 16日(木)	1
3	宇都宮市立宝木中学校 宮っ子チャレンジ・ウィーク	11月28日(火)～ 30日(木)	2

(4) 学芸員実習

No	事業名	実施期日	参加者数(人)	所属大学
1	学芸員実習	8月1日(火)～8月6日(日)	1	八洲学園大学

(5) 社会教育への対応

No	事業名	講師・出演者等	実施期日	会場	参加者数(人)
1	栃木県シルバー大学校「とちぎの美術」出講	講師：鈴木さとみ(主任研究員)	7月20日(木)	栃木県シルバー大学校南校	102
2	栃木県シルバー大学校「とちぎの美術」出講	講師：武関彩瑛(研究員)	7月21日(金)	栃木県シルバー大学校中央校	79
3	栃木県シルバー大学校「とちぎの美術」出講	講師：志田康宏(主任)	8月30日(水)	栃木県シルバー大学校北校	51
4	栃木県シルバー大学校「とちぎの美術」出講	講師：大城菜里恵(研究員)	9月12日(火)	栃木県シルバー大学校中央校	117

(6) 教育関係者との連携事業

No	事業名	実施期日	実施会場	参加者数(人)	備考
1	アートネットとちぎ 月例会	4月16日(日)	会議室	6	
2	アートネットとちぎ 月例会	5月14日(日)	会議室	12	
3	アートネットとちぎ 月例会	6月18日(日)	会議室	10	
4	アートネットとちぎ 月例会	7月23日(日)	会議室	12	
5	総会	8月19日(土)	集会室	22	
7	アートネットとちぎ 月例会	10月1日(日)	会議室	11	
8	アートネットとちぎ 月例会	11月26日(日)	会議室	9	
10	アートネットとちぎ 月例会	1月21日(日)	会議室	14	
11	アートネットとちぎ 月例会	2月25日(日)	会議室	12	
12	アートネットとちぎ 月例会	3月24日(日)	宇都宮美術館 会議室	13	
計				121	

3. 所蔵作品集計表

	令和5年度新収蔵作品点数 ()内は所蔵総点数				
種別	購入	寄贈	保管転換	管理項目換	計
日本画	0 (113)	4 (342)	0 (20)	0 (1)	4 (472)
油彩画等	0 (337)	17 (422)	0 (13)	0 (0)	17 (775)
水彩・素描	0 (129)	33 (691)	0 (1)	0 (0)	33 (821)
版画	0 (2,261)	48 (2,359)	0 (0)	0 (3)	48 (4,623)
写真・映像	0 (60)	0 (71)	0 (0)	0 (6)	0 (137)
彫刻・立体	0 (96)	2 (88)	0 (1)	0 (1)	2 (187)
工芸	0 (186)	6 (531)	0 (9)	0 (0)	6 (726)
書	0 (5)	0 (15)	0 (1)	0 (0)	0 (21)
その他(版木・二次資料等)	0 (7)	12 (1,770)	0 (8)	0 (0)	12 (1,785)
計	0 (3,194)	122 (6,289)	0 (53)	0 (11)	122 (9,547)

水彩・素描には菊川京三の模写287点を含む。

その他には峰村北山資料86点を含む。

上記以外に基金財産として令和5年度取得のアルフレッド・シスレー《冬の夕日(サン＝マメスのセーヌ河)》を含む油彩画等3点を収蔵。

4. 令和5年度美術館利用者数

No.	事業名	人数(人)	内訳	人数 (人)
1	展覧会事業	81,293	企画展	41,152
			常設展	37,417
			アートリンク(館外展)	2,724
2	普及教育事業	1,999	普及教育プログラム(企画展関係) ※スタンプラリー参加者数は除く	658
			普及教育プログラム(常設展・普及分館)	798
			学校への対応(社会見学、社会体験学習の受入)	32
			学芸員実習の受入	1
			社会教育への対応(栃木県シルバー大学 校への出講、合計4回、数字は受講者数)	403
			教育関係者との連携事業(アートネットとちぎ)	107
計		83,292		
ホームページのビジター数		510,694		

■令和5(2023)年度新収蔵美術資料

基金取得美術資料

No.	作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法	寸法(cm)	登録番号
1	アルフレッド・シスレー	1879-1942	冬の夕日 (サン＝マメスのセーヌ河)	1882-83年頃	カンヴァス、油彩	50×65	KI0007

寄贈美術資料

No.	作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法	寸法(cm)	登録番号
-----	-----	-----	-----	-----	-------	--------	------

日本画

1	佐竹永陵	1872-1937	雪景山水	1906年	絹本墨画淡彩	109.6×42.2	5836
2	荒井寛方	1878-1945	海景	1929年	絹本着色	44×56	5837
3	荒井寛方	1878-1945	鯉	不詳	絹本着色	55×67.6	5838
4	岡田蘇水	1819-1906	高士観瀑	1917年	絹本着色	127.4×41.1	5839

油彩画等

5	石井壬子夫	1912-1990	足尾風景	1961年	カンヴァス、油彩	45.5×53	5840
6	石井壬子夫	1912-1990	枯れた川	1972年	カンヴァス、油彩	53×45.5	5841
7	小口一郎	1914-1979	風景 横浜	1937年頃	カンヴァス、油彩	45.6×61.2	5842
8	小口一郎	1914-1979	小山機関区	1947年	カンヴァス、油彩	45.5×53	5843
9	小口一郎	1914-1979	小山機関区	1948年	ボード、油彩	31.7×40.8	5844
10	小口一郎	1914-1979	レンガ工場	1958年	カンヴァス、油彩	32×41.2	5845
11	小口一郎	1914-1979	北海の人	1963年	カンヴァス、油彩	90.6×72.7	5846
12	小口一郎	1914-1979	ドック	1964年	カンヴァス、油彩	72.8×91	5847
13	小口一郎	1914-1979	小山機関区	1966年	カンヴァス、油彩	53×65	5848
14	小口一郎	1914-1979	足尾銅山	1966年	カンヴァス、油彩	45.6×53	5849
15	小口一郎	1914-1979	赤い眼	1966年	カンヴァス、油彩	72.7×91	5850
16	小口一郎	1914-1979	自画像	1968年	カンヴァス、油彩	53.4×45.7	5851
17	小口一郎	1914-1979	足尾銅山	1972年	カンヴァス、油彩	60.6×72.8	5852
18	小口一郎	1914-1979	夕暮 サロマ	1974年	カンヴァス、油彩	38×45.6	5853
19	小口一郎	1914-1979	自画像	1974年	カンヴァス、油彩	65.3×53	5854
20	小口一郎	1914-1979	葛生石灰工場	1974年	カンヴァス、油彩	31.9×40.9	5855
21	渡辺豊重	1931-2023	鬼	2012年	カードボード、 アクリル	40×55.3	5856

水彩・素描

22	川島理一郎	1886-1971	木の下の子(舞台)	不詳	紙、水彩、鉛筆	13.5×18.5	5857
23	川島理一郎	1886-1971	日劇壁画下絵		紙、水彩	6.2×16.3	5858
24	川島理一郎	1886-1971	初秋	1960年代	紙、水彩、クレヨン	16×11.5	5859
25	川島理一郎	1886-1971	牡丹	1960年代	紙、水彩、 パステル	28.5×21.5	5860
26	川島理一郎	1886-1971	ダンス	1960年代	カンヴァス、水彩、 パステル	16.6×20	5861
27	牧野正吉	1905-1994	中禅寺湖	1927年	紙、水彩	31.6×39.6	5862
28	牧野正吉	1905-1994	静物(野菜)	1929年	紙、水彩	56.2×70	5863

29	牧野正吉	1905-1994	静物	1937年	紙、水彩	59.2×45.8	5864
30	牧野正吉	1905-1994	ハルピン 大陽島にて(松花江)	1969年	紙、水彩	38.5×57.5	5865
31	牧野正吉	1905-1994	ハルピン 大陽島サボンにて	1969年	紙、水彩	38.4×57.2	5866
32	牧野正吉	1905-1994	ハルピン ウクライナ寺院	1969年	紙、水彩	28.8×39.4	5867
33	牧野正吉	1905-1994	日光中禅寺湖 菖蒲ヶ浜	1940年	紙、水彩	55.8×76.2	5868
34	牧野正吉	1905-1994	男体山(日光)	1969年	紙、水彩	26.2×34.6	5869
35	牧野正吉	1905-1994	曇り日(大谷)	1942年	紙、水彩	57.2×77.5	5870
36	牧野正吉	1905-1994	大谷石切場	1943年	紙、水彩	56×75.6	5871
37	牧野正吉	1905-1994	下野芦野風景	1952年	紙、水彩	57.2×77.3	5872
38	牧野正吉	1905-1994	桜咲く芦野風景	1946年	紙、水彩	56.1×75.2	5873
39	牧野正吉	1905-1994	芦野	1947年	紙、水彩	33.8×50.6	5874
40	牧野正吉	1905-1994	宇都宮二荒山神社横にて	1947年	紙、水彩	55.5×80.8	5875
41	牧野正吉	1905-1994	益子	1948年	紙、水彩	37.3×56	5876
42	牧野正吉	1905-1994	中禅寺湖	1954年	紙、水彩	49.9×67.5	5877
43	牧野正吉	1905-1994	中禅寺湖(半月峠より 八丁出島)	1954年	紙、水彩	51×67.5	5878
44	牧野正吉	1905-1994	明智平	1954年	紙、水彩	56.3×75.1	5879
45	石井壬子夫	1912-1990	自己像(1975年6月12日)	1975年	紙、ペン	36.3×26.5	5880
46	石井壬子夫	1912-1990	自己像(1985年2月14日)	1984年	紙、コンテ	24.5×21	5881
47	石井壬子夫	1912-1990	自己像(1985年4月21日)	1985年	紙、コンテ、 パステル	36.5×25	5882
48	小口一郎	1914-1979	小山機関区	1947年	紙、木炭	49.5×93.3	5883
49	小口一郎	1914-1979	題不詳[アトリエにて]	1972年	紙、鉛筆、水彩	35.5×25.3	5884
50	小口一郎	1914-1979	題不詳[アトリエにて]	1972年	紙、鉛筆	35.5×25.3	5885
51	小口一郎	1914-1979	題不詳[アトリエにて]	1972年	紙、鉛筆	35.5×25.3	5886
52	小口一郎	1914-1979	題不詳[アトリエにて]	1972年	紙、鉛筆	35.5×25.3	5887
53	小口一郎	1914-1979	題不詳[アトリエにて]	1972年	紙、鉛筆	35.5×25.3	5888
54	小口一郎	1914-1979	題不詳[アトリエにて]	1972年	紙、鉛筆	35.5×25.3	5889

版画

55	鈴木賢二・ 小口一郎		『わが町わが村』第1号 (小口一郎 鈴木賢二 版画 集)	1951年	紙、木版	18×12.5	5890
56	小口一郎	1914-1979	『砂利を運ぶ人々』	1951年	紙、木版	28.4×23.3	5891
57	小口一郎	1914-1979	夏祭り	1951年	紙、木版	8.5×19.6	5892
58	小口一郎	1914-1979	砂利	1951年	紙、木版	16.2×10.5	5893
59	小口一郎	1914-1979	さんばつ	1951年	紙、木版	16.2×10.5	5894
60	小口一郎	1914-1979	炭入れ	1951年	紙、木版、手彩色	11.5×12	5895
61	小口一郎	1914-1979	傷痕軍人	1954年	紙、木版	26.5×19.5	5896
62	小口一郎	1914-1979	破防法	1954年	紙、木版	6.5×5.7	5897
63	小口一郎	1914-1979	ねこ	1954年	紙、木版	10.5×14.5	5898
64	小口一郎	1914-1979	春の花	1954年	紙、木版多色刷	27×37.7	5899

65	小口一郎	1914-1979	はぜかけ	1954年	紙、木版多色刷	27×20	5900
66	小口一郎	1914-1979	思川(1)	1954年	紙、木版多色刷	22×31	5901
67	小口一郎	1914-1979	思川(2)	1954年	紙、木版多色刷	27×37.8	5902
68	小口一郎	1914-1979	夕陽 谷中村	1955年	紙、木版多色刷	22.7×31.8	5903
69	小口一郎	1914-1979	オートメーションと労働者	1956年	紙、木版多色刷	39×29.5	5904
70	小口一郎	1914-1979	リベット打ち	1956年	紙、木版	31.5×43.6	5905
71	小口一郎	1914-1979	益子の窯元	1957年	紙、木版	25.5×33.5	5906
72	小口一郎	1914-1979	大谷石切場(1)	1957年	紙、木版多色刷	30×38.8	5907
73	小口一郎	1914-1979	大谷石切場(2)	1957年	紙、木版	45.2×30	5908
74	小口一郎	1914-1979	大谷石切場(3)	1957年	紙、木版多色刷	30.5×45.5	5909
75	小口一郎	1914-1979	屠殺場にて(1)	1957年	紙、木版	87.5×45.4	5910
76	小口一郎	1914-1979	屠殺場にて(2)	1957年	紙、木版	42.3×84.5	5911
77	小口一郎	1914-1979	レンガ工場 野木	1958年	紙、木版	33×45.5	5912
78	小口一郎	1914-1979	代掻き	1958年	紙、木版多色刷	22.8×33.1	5913
79	小口一郎	1914-1979	麦笛	1958年	紙、木版	33.3×25.5	5914
80	小口一郎	1914-1979	麦	1958年	紙、木版	28×26	5915
81	小口一郎	1914-1979	『丘の松島といわれる岩船山 石切場風景 版画集』	1958年	紙、木版多色刷	41×31	5916
82	小口一郎	1914-1979	水ぬるむ頃	1959年	紙、木版多色刷	22.6×33.2	5917
83	小口一郎	1914-1979	波紋	1960年	紙、木版、手彩色	25.6×50.8	5918
84	小口一郎	1914-1979	6・4スト	1960年	紙、木版	27.7×50.7	5919
85	小口一郎	1914-1979	地下の犠牲	1960年	紙、木版	34.4×83	5920
86	小口一郎	1914-1979	半農半漁	1963年	紙、木版	42×87.5	5921
87	小口一郎	1914-1979	網干し	1963年	紙、木版	24.3×33.2	5922
88	小口一郎	1914-1979	大谷石切場	1963年	紙、木版多色刷 (陰刻)	46×36.7	5923
89	小口一郎	1914-1979	漁場の網	1964年	紙、木版多色刷	33.1×48	5924
90	小口一郎	1914-1979	屋根	1966年	紙、木版多色刷 (陰刻)	27.7×32.7	5925
91	小口一郎	1914-1979	ガスの中の作業	1968年	紙、木版多色刷	70×49.5	5926
92	小口一郎	1914-1979	赤い眼	1968年	紙、木版多色刷	23×26	5927
93	小口一郎	1914-1979	足尾銅山	1968年	紙、木版多色刷	45.2×59.2	5928
94	小口一郎	1914-1979	北国の行商人	1968年	紙、木版	27.5×36	5929
95	小口一郎	1914-1979	石灰工場 葛生	1974年	紙、木版多色刷 (陰刻)	45.5×60	5930
96	小口一郎	1914-1979	益子 成井窯	1977年	紙、木版	28.5×39.5	5931
97	小口一郎	1914-1979	益子の陶工	1977年	紙、木版	49×29	5932
98	小口一郎	1914-1979	木版ローラー刷り	1959年	紙、木版多色刷	35.8×23	5933
99	小口一郎	1914-1979	アトリエ	1960年	紙、エッチング	19.5×13.3	5934
100	小口一郎	1914-1979	『とちび 版画小品集』No.1	1966年	紙、木版、 謄写版	26.9×19.5	5935
101	小口一郎	1914-1979	『とちび 版画小品集』No.2	1967年	紙、木版、 謄写版	25.5×17.7	5936
102	小口一郎	1914-1979	『とちび 版画集』No.1	1970年代	紙、木版、 謄写版	26×36.8	5937

彫刻・立体

103	鈴木賢二	1906-1987	「土」三部作(のうち「勘次」)	1938年	石膏	73×43×30	5938
104	鈴木賢二	1906-1987	「土」三部作(のうち「勘次」)	1938(鑄造: 1950年代)	ブロンズ	73×43×30	5939

工芸

105	濱田庄司	1894-1978	鉄絵茶碗	1937-45年頃	陶	8.5×φ12.5	5940
106	濱田庄司	1894-1978	黒彫絵茶碗	1937-45年頃	陶	10.5×φ11.5	5941
107	濱田庄司	1894-1978	鉄絵文打水指	1937-45年頃	陶	19.5×φ19	5942
108	藤沼昇	1945-	束編青海波花籃 雅	1984年	竹	32×44×44	5943
109	藤沼昇	1945-	網代編舟形花籃 翔	1989年	竹	14×54×22	5944
110	藤沼昇	1945-	束編花籃 和	2008年	竹	24×46×46	5945

その他

111	古川龍生	1893-1968	古川龍生版画資料	不詳	紙、木版、墨等		5946
112	滝平二郎	1921-2009	滝平二郎(編集・発行) 『日本版画新聞』10号	1952年	紙、謄写版	38×27	5947
113	小口一郎	1914-1979	『BBBB』1号	1955年	紙、謄写版	21.6×15.4	5948
114	小口一郎	1914-1979	『BBBB』2号	1955年	紙、謄写版	25.1×17.9	5949
115	小口一郎	1914-1979	510694	1956年	紙、木版、 謄写版	25×18	5950
116	小口一郎	1914-1979	日本版画運動協会 (編集・発行) 『版画運動』27号	1956年	紙、木版、 謄写版	25×18	5951
117	小口一郎	1914-1979	『栃木美術会 活動記録 1965-67』	1967年	紙、謄写版	19.1×13.7	5952
118	小口一郎	1914-1979	機関誌『とちび』No.1	1973年	紙、木版、 謄写版	26.2×18.8	5953
119	小口一郎	1914-1979	機関誌『とちび』No.2	1973年	紙、木版、 謄写版	26.2×19	5954
120	小口一郎	1914-1979	機関誌『とちび』No.3	1973年	紙、木版、 謄写版	25.6×18.7	5955
121	小口一郎	1914-1979	機関誌『とちび』No.4	1974年	紙、木版、 謄写版	26.2×18	5956
122	小口一郎	1914-1979	機関誌『とちび』No.5	1975年	紙、木版、 謄写版	26×18.4	5957

■美術資料貸出状況

No.	作者名	作品名	展覧会名	貸出先	会期	
1	橋本邦助	秋の花	開館記念展 明日につなぐ物語	栃木市立 美術館	2023/4/15	～ 2023/6/18
2	橋本邦助	微酔	〃	〃	〃	〃
3	橋本邦助	猫と螺鈿の箆笥	〃	〃	〃	〃
4	刑部人	断崖	〃	〃	〃	〃
5	刑部人	溪流錦繡 (十和田奥入瀬)	〃	〃	〃	〃
6	清水登之	ニューヨーク、 夜のチャイナタウン	〃	〃	〃	〃
7	清水登之	パリ夜街	〃	〃	〃	〃
8	清水登之	父の庭	〃	〃	〃	〃
9	清水登之	難民群	〃	〃	〃	〃
10	飯塚小玗齋	瓢形箆目つぶし 花籃	〃	〃	〃	〃
11	飯塚小玗齋	竹網代まんじ繋文 高盤	〃	〃	〃	〃
12	飯塚琅玗齋	花籃 漁父	〃	〃	〃	〃
13	飯田清石	菱文透重編花籃 煌々	〃	〃	〃	〃
14	鈴木賢二	映画「路傍の石」	〃	〃	〃	〃
15	瑛九	輪	久保貞次郎ゆかりの天才 アーティスト 池田満寿夫	久保記念観光 文化交流館 美 術品展示館	2022/9/3	～ 2023/6/19
16	瑛九	ともしび	〃	〃	〃	〃
17	瑛九	海辺の孤独	〃	〃	〃	〃
18	瑛九	れい明	〃	〃	〃	〃
19	池田満寿夫	眼と太陽	〃	〃	〃	〃
20	池田満寿夫	荒野の花嫁	〃	〃	〃	〃
21	池田満寿夫	子供のいのり	〃	〃	〃	〃
22	池田満寿夫	題不詳	〃	〃	〃	〃
23	池田満寿夫	題不詳	〃	〃	〃	〃
24	池田満寿夫	女王	〃	〃	〃	〃
25	池田満寿夫	小さな小さな空間	〃	〃	〃	〃
26	池田満寿夫	子供	〃	〃	〃	〃
27	池田満寿夫	女 2	〃	〃	〃	〃
28	池田満寿夫	マヌカン	〃	〃	〃	〃
29	五百城文哉	春日山春景図 (桃源図)	農と美術	茨城県近代美 術館	2023/7/8	～ 2023/9/3
30	清水登之	地に憩う	〃	〃	〃	〃
31	鈴木賢二	哺乳	〃	〃	〃	〃
32	鈴木賢二	暖風	〃	〃	〃	〃
33	鈴木賢二	貌	〃	〃	〃	〃
34	鈴木賢二	花	〃	〃	〃	〃

35	鈴木賢二	忍草 (俺たちの土地)	〃	〃	〃	〃
36	古川龍生	昆虫戯画卷 (目次)	春陽会誕生100年 それぞれの闘い 岸田劉生、中川一政から岡 鹿之助へ	東京ステー ションギャ ラリー	2023/9/16	～ 2023/11/12
37	古川龍生	昆虫戯画卷 争闘篇 草上飛行	〃	〃	〃	〃
38	小杉放菴	松下人	〃	〃	〃	〃
39	藤田嗣治	花を持つ少女	没後55年 藤田嗣治	笠間日動美術館 企画展示館	2023/09/30	～ 2023/12/17
40	灰野文一郎	那須の山	特別展 那須塩原風景 画譚	那須塩原市 那須野が原博 物館	2023/10/07	～ 2024/1/14
41	刑部人	溪流(塩原)	〃	〃	〃	〃
42	刑部人	溪流残雪(塩原)	〃	〃	〃	〃
43	クロード・モネ	サン=タドレスの海岸	モネ 連作の情景	大阪中之島 美術館	2024/02/10	～ 2024/5/6
44	古川龍生	昆虫戯画卷 平和 篇 豊年万作	春陽会誕生100年 それぞれの闘い 岸田劉生、中川一政から 岡鹿之助へ	長野県立美術 館	2024/03/16	～ 2024/5/12
45	古川龍生	昆虫戯画卷 争闘 篇 群虫密議	〃	〃	〃	〃
46	小杉放菴	松下人	〃	〃	〃	〃
47	小川マリ子	静物A	〃	〃	〃	〃

■学芸員研究業績等 2023年4月～2024年3月

橋本慎司(副館長兼学芸課長)

- トークイベント 「近代におけるコレクターと絵画受容」板橋区立美術館 「椿椿山」展、2023年4月8日
- 編集 『文晁と北斎—このふたり、ただものにあらず』図録、栃木県立美術館、2023年10月
- 論文 「文晁と北斎—ただものではないふたり」『文晁と北斎—このふたり、ただものにあらず』図録、栃木県立美術館、2023年10月
- 解説記事 「江戸のスーパースター——文晁と北斎 県立美術館学芸員解説①」
谷文晁「駱駝図」『下野新聞』2023年11月4日
- 解説記事 「江戸のスーパースター——文晁と北斎 県立美術館学芸員解説②」
葛飾北斎「富嶽三十六景 尾州不二見原」『下野新聞』2023年11月11日
- 解説記事 「江戸のスーパースター——文晁と北斎 県立美術館学芸員解説③」
谷文晁「金碧青緑山水図」『下野新聞』2023年11月18日
- 解説記事 「江戸のスーパースター——文晁と北斎 県立美術館学芸員解説④」
葛飾北斎「月兔図」『下野新聞』2023年11月25日
- 解説記事 「江戸のスーパースター——文晁と北斎 県立美術館学芸員解説⑤」
谷文晁「那須眺望図」『下野新聞』2023年12月2日

木村理恵子(特別研究員)

- 編集 『春陽会誕生100年 それぞれの闘い 岸田劉生、中川一政から岡鹿之助へ』図録、東京ステーションギャラリー・栃木県立美術館・長野県立美術館・碧南市藤井達吉現代美術館、2023年9月
- 論文 「戦前期の春陽会の「日本人の絵画」への志向—同時代の批評から」『春陽会誕生100年 それぞれの闘い 岸田劉生、中川一政から岡鹿之助へ』図録、東京ステーションギャラリー・栃木県立美術館・長野県立美術館・碧南市藤井達吉現代美術館、2023年9月、177-179頁
- エッセイ 「『二つの栃木』の架け橋 小ロー展 足尾鉍毒事件を描く」を開催して」『会報「ペン」』第184号、2023年7月1日、3-5頁
- エッセイ 「木版に刻まれたメッセージ 足尾鉍毒事件を描いた画家・小ロー展 第1回 社会問題に目覚めた芸術家たち」『月刊保団連』No.1409、2024年1月1日、50-53頁
- エッセイ 「木版に刻まれたメッセージ 足尾鉍毒事件を描いた画家・小ロー展 第2回《野に叫ぶ人々》がもたらした衝撃」『月刊保団連』No.1410、2024年2月1日、48-51頁
- エッセイ 「木版に刻まれたメッセージ 足尾鉍毒事件を描いた画家・小ロー展 第3回(最終回) ふるさとを追われた人々」『月刊保団連』No.1411、2024年3月1日、48-51頁
- エッセイ 「個性と芸術思想を尊重「春陽会誕生100年 それぞれの闘い 岸田劉生、中川一政から岡鹿之助へ」展」『しんぶん赤旗』2024年2月5日
- 研究助成 科学研究費補助金[基盤研究(C)]「内間安理・俊子と戦後の日米美術交流に関する研究」研究代表者:木村理恵子、令和元-5年度

鈴木さとみ(主任研究員)

- エッセイ 「花籠(籠花入)の歴史」『小原流 挿花』第73巻第7号通巻872号、一般財団法人小原流、2023年7月1日、pp.9-12
- 寄稿 「特別寄稿 竹工芸との出会い—美術館における作品鑑賞プログラム」『下野教育』第774号、栃木県連合教育会、2023年11月、pp.10-15
- 作家解説 「飯塚琅玕齋」『日本アーティスト事典』、国立アトリサーチセンター、2023年4月、<https://artplatform.go.jp/ja/artists/A1055>
- 講座 「栃木の竹工芸—飯塚琅玕齋と人間国宝を中心に」、栃木県シルバー大学校南校、2023年7月20日

- 列品解説 「第63回東日本伝統工芸展」木竹工部門、日本橋三越、2023年5月18日
- 審査委員 「第26回全国竹芸展」審査委員、大田原市那須与一伝承館、2023年9月25日
- 評価員 無形文化財工芸技術資料の買取評価員、2023年11月21日～2024年3月31日
- 講評 「日本工芸会賞 田中旭祥《花籠 霞》」、『第63回東日本伝統工芸展』図録、日本伝統工芸展運営委員会、2023年5月、p.71
- 講評 「優秀賞 勝城七五男《透かし交色波網代編盛籃 湖畔》」、「総評 第26回全国竹芸展」、『第26回全国竹芸展』図録、2023年11月、p.26、p.28

山本和弘(主任研究員)

- エッセイ 「富井大裕の彫刻における一般性と、その拡張性について」『今日の彫刻 富井大裕』水声社、2023年8月
- 展評 「方法主義のシンギュラリティ、あるいは世界創造のレシピ —「IAMAS ARTIST FILE #09 〈方法主義芸術〉—規則・解釈・(反)身体」展 レビュー」『月刊美術批評WEBマガジンレビューとレポート』<https://note.com/misonikomioden/n/n7888e5de1df9>

志田康宏(主任)

- 講座 栃木県シルバー大学校北校「とちぎの「日本絵画」史」、2023年8月30日
- 講座 氏家喜連川歴史文化研究会歴史講座「新資料でたどる荒井寛方の生涯」
「仏画とは？② 岡倉天心と近代仏画の時代」、2023年12月9日
- エッセイ 「仏画とは？①仏教史と尊格分類」
『氏家喜連川 歴史と文化』第22号、氏家喜連川歴史文化研究会、2023年5月31日
- 列品解説 「ギャラリートーク」、アートリンクとちぎ2023『石川寒巖』展(佐野市立吉澤記念美術館)
関連イベント、2024年1月27日

大城茉里恵(研究員)

- 講座 栃木県シルバー大学校中央校「栃木県の版画家たち」、2023年9月12日
- 講座 成城大学文芸学部創設70周年記念事業 学芸員課程創設50周年記念シンポジウム
「学芸員という仕事 その魅力と面白さ」、成城大学、2023年9月30日
- エッセイ 「種を蒔く仕事」『成城大学学芸員課程ニュースレター』第8号、成城大学学芸員課程委員会、
2023年9月30日、pp. 4-5
- 列品解説 「ギャラリートーク」、アートリンクとちぎ2023『生誕 130 年 古川龍生木版画展 人物モチーフと街景・海
浜風景』(小山市立車屋美術館)関連イベント、2023年11月4日
- 列品解説 「ギャラリートーク」、アートリンクとちぎ2023『挿絵本の世界へようこそ—19世紀フランス・イギリスの美し
い書物—』展(久保記念観光文化交流館 美術品展示館)関連イベント、2023年12月2日

武関彩瑛(研究員)

- 講座 栃木県シルバー大学校中央校「とちぎの美術 栃木県の油彩画家たち—栃木から芸術の都・パリへ」、
2023年7月21日
- 論文 “Il paesaggio mitologico segue un modello? Le pitture in Terzo e Quarto Stile.”, *Pareti dipinte : dallo scavo alla valorizzazione : atti del XIV Congresso internazionale dell'Association Internationale pour la Peinture Murale Antique (AIPMA)*, 2024, Roma, pp. 1007-1012.

■名簿(令和6年3月31日現在)

栃木県立美術館評議員

学校教育関係者

副会長 佐藤 香	栃木県中学校教育研究会美術部会会長(小山市立豊田中学校校長)
委員 松原 伸夫	栃木県小学校教育研究会図画工作部会会長(宇都宮市立豊郷南小学校校長)

社会教育関係者

委員 大野 斉子	宇都宮大学国際学部准教授
----------	--------------

家庭教育関係者

委員 伊吹 桂子	家庭教育オピニオンリーダー連合会顧問
----------	--------------------

学識経験者

委員 有坂 隆二	栃木県立茂木高等学校非常勤講師 インスタレーション作家
会長 岸本 卓也	(株)下野新聞社代表取締役社長
委員 齋藤 千明	白鷗大学教育学部教授・鹿沼市立川上澄生美術館館長
委員 佐々木 吉晴	宇都宮美術館館長
委員 清水 和幸	(株)足利銀行 代表取締役頭取
委員 杉村 浩哉	栃木市立美術館館長
委員 野澤 和一	栃木県議会議員

(分野別50音順)

職員

